

## 各教科等学習指導案（項目）

※各教科等に共通している項目です。指導案を作成する際には、各教科等の指導案例を参考にしてください。

### 1 単元（題材）名

### 2 単元（題材）設定の理由

- (1) 児童生徒について
- (2) 教材（題材）について
- (3) 指導について

※各教科等の例を参考にしてください。

※教科等の特質により、(1)～(3)の順が異なる場合があります。

### 3 単元の目標

※単元の目標を作成するに当たっては、本県が新大分スタンダードに基づいた授業改善を推進していることを踏まえ、**指導者の指導の意図や育成を目指す資質・能力を明確にする**ため、指導者の立場で記述するようにします。

※単元の目標は、一文で書く場合と、資質・能力の三つの柱に即して三つで書く場合があります。

### 4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① . . . . .	① . . . . .	① . . . . .
② . . . . .	② . . . . .	② . . . . .
② . . . . .	② . . . . .	③ . . . . .

※小・中学校とも3観点で書きます。

※各教科等の単元（題材）の評価規準作成の手順は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所 令和2年3月）を参考にしてください。



参考資料 QR コード

### 5 指導と評価の計画（○時間）

（例）

小単元名 （時数）	ねらい・学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	

※単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現されるようにします。

※各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにします。

※単元（題材）を見通して、教師の指導改善に生かす評価と、総括の資料とするため全ての児童生徒の学習状況を評価して記録に残す場面の位置付けを考えます。

※「新大分スタンダードのすすめ」（平成31年3月 第3版）を参考にしてください。



※「早わかり！単元計画の作成手順」も参考にしてください。



# ○学年○組 国語科学習指導案（例）

令和○年○月○日（○）第○校時  
○年○組 ○名  
指導者 ○○ ○○

1 単元名 \*「○○をしよう」など、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが児童に分かるように工夫している。

教材名 ○○○○（作者・筆者、出版社名等）

## 2 単元設定の理由

### (1) 児童について

\* 次のような観点から実態をとらえる

- ① 同系統の前単元ではどのような能力の育成をねらって、どのような言語活動を行ったか。
- ② その学習において、児童はどのような言語能力を身に付けているか。
- ③ まだ身に付いていない言語能力はどのようなものか・・・単元の目標とずれないように

### (2) 単元構成について

\* (1)「児童について」の記述をふまえて、

- ① 本単元ではどのような言語能力を育成するのか。
- ② その能力を育てるために、どのような教材や言語活動を組み合わせて単元を構成するのが概観できるように記述する。

### (3) 指導について

\* (1)「児童について」(2)「単元構成について」の記述をふまえて、

グループ学習やペア学習などの指導形態や、ワークシートや学習の手引きの工夫、自己評価・相互評価の工夫など、具体的な指導上の工夫点を記述する。

## 3 単元の目標

\* 以下の3点について単元の目標を設定する（\*教師の立場で書く。）

- ① 「知識及び技能」の目標 → ①②については、基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。
- ② 「思考力、判断力、表現力等」の目標
- ③ 「学びに向かう力、人間性等」の目標

→ ③については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつ価値～思いや考えを伝え合おうとする」までを示し、文末を「伝え合おうとするようにする。」として記述する。（ただし、「読書」に関する部分については、学習活動により適切に設定すること）

## 4 本単元における言語活動

例 夏休みの思い出を報告する。（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ア）

## 5 単元の評価規準

\* 観点別に記述する。観点は以下の通り。

- ① 「知識・技能」
  - (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
  - (2) 情報の扱い方に関する事項
  - (3) 我が国の言語文化に関する事項

いずれの単元でも設定
- ② 「思考・判断・表現」
  - (1) 話すこと・聞くこと
  - (2) 書くこと
  - (3) 読むこと

当該単元で指導するものを焦点化して設定（通常1つ、多くても2つ）
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」

いずれの単元でも設定

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>*当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している」として作成する。</p> <p>*育成したい資質・能力に照らして指導事項の一部を用いて作成することもある。</p>	<p>*当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「（領域名）において、」と明記し、文末を「～している」として作成する。</p> <p>*育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもある。</p>	<p>*以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なおくゝ内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。</p> <p>①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く 等〉</p> <p>②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、いままでの学習を生かして 等〉</p> <p>③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮して欲しい内容）</p> <p>④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）</p>

## 6 指導と評価の計画（全〇時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法(例)
1	* (例) 単元の目標を達成するために必要な学習活動ではあるが、単元の目標には直結しない学習活動を設定	<p>*この例の場合、本時では児童の学習状況を捉えるための評価及びそれに基づいた指導は行わぬが、単元の目標に直結する学習活動を設定していないことから、本単元の評価には含めない。</p>	
2	* (例) 単元の目標達成に直結する学習活動を設定	<p>*評価規準とあわせ、「おおむね満足できる状況(B)」とする児童の状況(姿)を想定しておくことが大切。</p>	<p>[知・技①] カード ・事物を表す言葉、経験したことを表す言葉、色や形を表す言葉の文意に沿った活用状況の確認</p>
3			<p>[思・判・表①] ワークシート① ・カードの並び順とその順序にした理由の確認</p>
4			<p>[主①] 観察・ワークシート② ・他者との交流を通して並び順を見直している様子の確認・分析</p>
5			<p>[思・判・表②] ワークシート③ ・記述の確認</p>
6			
7			

7 本時の指導（ / ）

(1) 本時のねらい

\*指導者の立場で書く。

(2) 本時の評価規準

\*本時のねらいと対応させる。

\*単元の評価規準をもとに、本時で「おおむね満足できる状況（B）」とする児童の状況（姿）を想定して設定する。

(3) 展開（〇分）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
1	<p>○</p> <p>本時のめあてや学習課題、主発問等を書く</p> <p>*児童の立場で書く *「学習の見通しをもつ活動」「振り返り（まとめ）の活動」は必ず位置付ける。</p>	<p>○</p> <p>*指導者の立場で書く。 *学習活動と対応させて、支援の意図・重点・手立てなどについて留意すべきことを具体的に書く。 *「C 努力を要する状況」と判断される児童への手立てを具体的に書く。</p>	<p>・</p> <p>*評価場面と方法を明らかにする。</p>
~~~~~			

## 第6学年2組 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時  
6年〇組 〇〇名  
指導者 〇〇 〇〇

### 1 単元名 物語を読んで、登場人物の生き方から考えたことを語り合おう

教材名 「海の命」立松和平 (「国語六 創造」光村図書)

### 2 単元設定の理由

#### (1) 児童について

「読むこと」に関しては、人物の行動や気持ちを叙述に即して読み取ることや気になるところや心を動かされたところ、共感できるところに線を引きながら読むこと、自分の生活や体験との接点を考えて読むこと、根拠を示したり引用したりしながら考えをまとめることなどの学習を行ってきた。

これまでの学習を通して、根拠となる叙述を見付けることはできるものの、読み取ったことと既有的知識をつなげて考えたり、自身のこれまでの経験等と結び付けて考えたりすることは苦手であり、作品に対する読みが深まらないことから、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめる力も十分には付いていない。

#### (2) 単元構成について

本単元では、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる力を育成する。

教材文「海の命」は、様々な人との関わりや多くの経験を通して、主人公が自己の生き方を見つめ、成長していく物語である。物語前半の主人公「太一」は、子どもたちと年齢が近く、太一の抱く父へのあこがれは共感しながら読むことができると考える。まず、父のような漁師になることを夢見た子どもから、父や与吉じいさの死と向き合い、村一番の漁師になるまでの太一の心情や行動について叙述に基づいて読む。そして、読み取った太一の心情等を、自身のこれまでの経験等と結び付けて改めて考えたり、自分の思いと比較したりしながら、「太一の生き方」について自分の考えを持つ。さらに、各自の「太一の生き方」から考えたことを語り合う活動により、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

#### (3) 指導について

指導に当たっては、太一の心情や行動について、各自が、自身のこれまでの経験等と結び付けて考えやすいように「根拠となる叙述」「自分の経験等」「考えたこと」などの結び付きを概観できるワークシートを工夫する。

また、各自が「太一の生き方」から考えたことを語り合う際には、他者の考えを受け入れるとともに自分の考えと比較しながら聞かせ、質問をしたり気付いたことを伝えたりできるよう、モデルを準備し、ポイントを見える化することで、語り合う活動の充実を図る。それにより、「太一の生き方」に対する捉えがより多面的になり読みを深めることが期待できるとともに、読み取ったことに基づいて自分の考えをまとめる力も育成できると考える。

### 3 単元の目標

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができるようにする。 [知識及び技能] ((1) 言葉の使い方に関する事項 オ)
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるようにする。  
[思考力・判断力・表現力等] (C 読むこと オ)
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができるようにする。  
[思考力・判断力・表現力等] (C 読むこと カ)
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え会おうとするようにする。  
[学びに向かう力、人間性等]

### 4 本単元における言語活動

「登場人物の生き方から考えたことを語り合う」活動を位置付けた。

(関連 [思考力、判断力、表現力等] C(2)イ)

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</li> <li>②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く、叙述に基づいて文章を理解し、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</li> </ul>

## 6 指導と評価の計画（全8時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価
一次 (1)	○学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主人公の「生き方」に着目して「海の命」を読むことを確認する。</li> <li>初発の感想として、誰のどんな「生き方」に共感するか、また「太一の生き方をもとに自分の生き方を考えてみよう」という読みのめあてを持たせる。</li> </ul>	
二次 (2～5)	<p>○全文を通読し、作品の全体構成を明らかにする。</p> <p>○太一の人物像を整理する。</p> <p>○瀬にもぐるようになった太一の心情について自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成を確認し、各場面での太一の年齢、漁師としての（漁師に対する）思いや生き方を読み取らせる。</li> <li>太一の人物像が分かる部分に線を引かせ、そこから太一の人物像を考えさせる。</li> <li>太一の漁師としての考え方や生き方に人物像には、おとう、与吉じいさが影響を与えていることに気付かせ、おとう、与吉じいさの人物についてもそれぞれまとめさせる。</li> <li>語句と語句の関係に注意して読み、人物像をまとめている。</li> <li>不安を語る母の思いを受け止めながら、瀬に潜る太一の心情について、自分の考えをまとめる。</li> <li>自分の考えをまとめる際には、「根拠とした叙述」と「自分の経験等」を結び付けて考えさせるようにする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔知識・技能①〕 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>語句と語句の関係を理解し、人物像を捉えているか確認</li> <li>「ことば通帳」にある語句を使用しているか確認</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート</p> <p>叙述をもとに太一の心情を想像し、自分の考えをまとめているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕 観察・ワークシート</p> <p>自分の経験等とも結び付けて考えようとしているか確認。</p> </div>

<p>三 次 （ 6 〜 8 ）</p>	<p>○太一がクエ（瀬の主）にもりを打たなかった理由を考える。</p> <p>○太一の生き方について、自分の経験等と結び付けて考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太一がもりを打たなかった理由を文章中の叙述をもとに考えさせる。</li> <li>・太一に生き方に影響を与えた父や与吉じいさの生き方とも結び付けて考えさせるようにする。</li> <li>・自分の経験と結び付けたり比較したりしながら「太一の生き方」について考える。</li> <li>・各自がワークシートに整理した内容を交流する。その際、自分の考えのもととなった根拠や経験等の違いに着目させ、分からないことを質問したり、気付いたことを伝えたりできるよう、交流のモデルを示す。</li> <li>・交流で出された他者の考えも参考に、再度、「太一の生き方」について考え、400字程度でまとめる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[思考・判断・表現①] ワークシート 叙述をもとに太一がもりを打たなかった理由を想像し、自分の考えをまとめているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート 自分の経験等とも結び付けて考えようとしているか確認。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現②] ワークシート 交流での新たな気付きや自己の考えの変容を踏まえてまとめているか確認。</p> </div>
----------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



## 7 本時案 (6/8)

### (1) 本時のねらい

太一が瀬の主にもりを打たなかった理由を、文章中の叙述と自分の経験等を結び付けながら考え、理由と根拠のつながりを意識してまとめることができるようにする。

### (2) 本時の評価規準

太一がもりを打たなかった理由を、太一の生き方に大きな影響を与えた父や与吉じいさの生き方と結び付けて考え、自分のことばでまとめている。

### (3) 展開 (45分)

学習活動	時間	教師の指導・支援	備考・評価
1 本時のめあてを確認する。	2	○本時の流れとめあてを確認させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">太一の生き方について、自分の考えをまとめよう。</div>			
		・前時の学習を想起させ、まとめた太一の心情を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">太一がもりを打たなかったのはなぜか。</div>			
2 瀬にもぐるようになった太一がもりを打たなかった理由を考える。	30	<p>○この場面での太一の心情の変化を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不意に夢が実現した</li> <li>・この大魚は自分に殺されたがっている</li> <li>・この魚を取らなければ、本当の一人前の漁師にはなれない (泣きそう)</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おとう、ここにおられたのですか」</li> <li>・大魚はこの海の命</li> </ul> <p>○太一の成長に大きく関係した父の生き方、与吉じいさの生き方と結びつけて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父……「海のめぐみだからなあ」</li> <li>・与吉…「千匹いるうち一匹をつれば、ずっとこの海で生きていける」</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">海とともに生きる</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶海の命を大切にした父や与吉のような漁師に…</li> <li>▶これからも漁師として生き続ける。</li> <li>▶漁師であり続けられることに対する感謝</li> </ul>	<p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート 叙述をもとに太一がもりを打たなかった理由を想像し、自分の考えをまとめているか確認。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">(例) これからも父や与吉じいさのように海とともに生きていきたい。 そのためには海の命 (瀬の主) とも、ともに生きることが大切。</div>			
3 太一の行動に対する自分の考えをまとめる。	10	○今までの自身の経験や自分のこれまでの言動と比較しながら考えさせる。	
4 本時の振り返りと次時の確認をする。	3	○本時で学んだことを振り返らせ、次時の学習を確認させる。	

社会科学習指導案【例】

第〇学年社会科学習指導案

令和〇〇年〇月〇日〇曜日  
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
〇年〇組 〇名  
指導者 〇〇 〇〇〇

1 単元名 「〇〇〇〇〇〇」

2 単元設定の理由

(1) 児童生徒観 (このような児童生徒に)

○**児童生徒の社会科における主体的に学習に取り組む態度、単元に関する知識・技能や思考・判断・表現の観点から定着度などを書く。**

- ① 主体的に学習に取り組む態度については、社会科において粘り強い取組を行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面からとらえること。
- ② この単元に関わっての実態を、今までの指導との関連からまとめる。
- ③ 児童生徒のマイナス面よりもよりよいところをとらえる。
- ④ 事前調査等をしていれば具体的数値等の根拠をもって示す。

(2) 教材観 (このような教材で)

○**学習指導要領などをもとに十分な教材分析をし、取り上げる単元の内容、特質や意味、既習事項との関連、今後の展開などを書く。**

・社会的事象は一面的一方向的な捉えにならないように留意する。

(3) 指導観 (このような指導がしたい)

○**指導・支援の方法、学習形態、仮説、配慮事項等の工夫や手立てを書く。**

- ① 作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を充実させた指導を工夫する。
  - ② 協働思考を伴う学習活動を工夫する。
  - ③ 児童生徒が考えたことを言語などで表現をする活動を工夫する。
  - ④ 知識及び技能の確実な習得ができるように工夫する。
- ※ 研究会等の場合は、研究主題との関連も具体的に書く。

3 単元の目標

○**単元の目標は、次の3つの要素を入れて一文で書く。**

- ・学習内容 (～について)
- ・学習活動 (～する活動を通して、～によって、～することにより、～して、～に基づいて等)
- ・付けたい力 (～ようにする)

※**資質・能力の三つの柱に即して、三文で書くことも考えられます。**

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〔令和2年3月〕 〔国立教育政策研究所〕第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にする。		

5 指導と評価の計画（全○時間）

次 程	ねらい 〔第○時〕	主な学習活動・内容	評価規準と評価方法
第 一 次	単元を貫く学習課題（問題）を記載		
第 二 次			
第 三 次			

6 本時案

(1) 題目「○○○○」※この時間に学習する内容を端的に示す。例「あたたかい土地の家やくらしの工夫」など

(2) 本時のねらい

単元のうち本時の学習活動で目標としているものを具体的に書く。

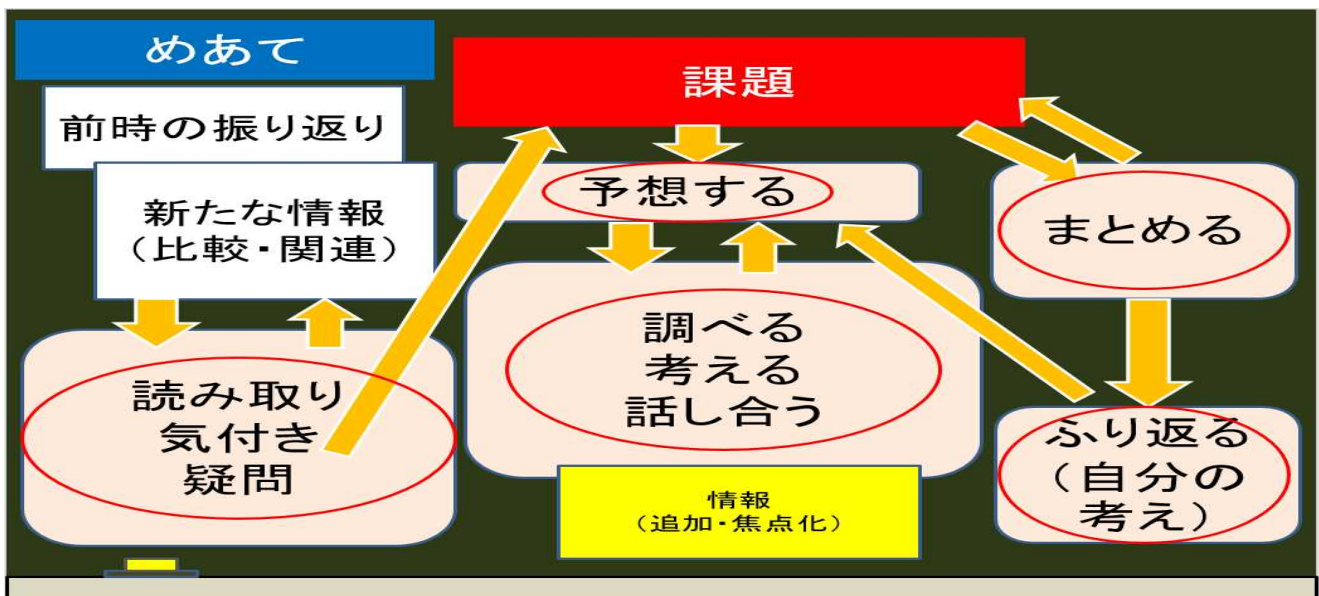
- ① 児童生徒がこの時間に身に付けることを一文で示したものが本時のねらいである。
  - ・学習内容
  - ・学習活動
  - ・本時に付けたい力
- ② 付けたい力は1つか2つに絞ること。
- ③ ねらいと評価規準が一体となること。（ねらいと評価の整合性）

(3) 展開

	主な学習活動・内容	教師の指導・支援	備考（評価等）
1			
2	導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童生徒の立場で書く。	本時の学習問題（課題）や目標を実線で囲んで書く。  ◇ 学習過程に沿って、支援の意図・重点、手立てなどについて留意すべきことを具体的に指導者の立場で書く。 ◇ 「努力を要する」状況（C）と判断される場合における児童・生徒への手立てや教育的配慮を必要とする児童・生徒への配慮の意図と手立ての例を示す。 ◇ 学習活動と教師の支援とのかかわりを対応させて書く。	本時のねらいや単元の評価規準と対応させた評価規準と評価方法を書く。

3	(例) ～して～できるようにする	(例) ○○○ (評価方法) から 「◆◆◆しているか」を 評価する。
4	<b>学習問題（課題）に対応する学習のまとめ 児童生徒によるまとめの例</b>	

7 板書計画（例）



【各段階における指導のポイント】

- ◇導入 既習事項を整理し、新たな学習課題と出会う場面
  - ① 矛盾や素朴な疑問を引き出す場の構成はあるか。
  - ② 学習目的の明確化と意欲の高揚は図られるか。
  - ③ なぜ、学習するのが児童生徒に理解されているか。
- ◇展開 悩み、考え、自分なりの考えをもち、課題解決をする場面
  - ① 学習課題は児童生徒に意識付いているか。（見通しが立つか）
  - ② 自分で考え、判断し、表現する場があるか。
  - ③ 学習方法を児童生徒が選択できるか。（個々の学習スピードに配慮があるか）
- ◇終末 まとめる活動を通して、本時の目標を達成する場面
  - ① 児童生徒自身によるまとめの活動はあるか。
  - ② 自分の学習活動を振り返る場はあるか。（自己評価）
  - ③ 新しい知識、確かな技能が獲得され、新たな学習意欲へとつなげられたか。

# 学習指導案の例

## 算数科学習指導案（例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇〇

### 1 単元名

### 2 単元設定の理由（指導の立場）

次の3点について書いていく。それぞれ〇〇観とは書かず、3段落に分けて書くことが多い。

#### （1）教材観

教材の価値や付けたい力、発展系列における位置付けなどを書く

例：これまでに～本教材は～さらに～

#### （2）児童観

本題材を学習する上での児童の予想される関心・興味、予想される出方、できることとできないこと、児童に対する期待感、学習に対する児童の構え、実態などを具体的に書く。

また、事前のレディネステストやアンケートなどのデータをもとに書くこともある。

#### （3）指導観

上記の2つの観点を踏まえ、どのように指導していくか、個に徹する指導を目指したり、意欲を持って主体的に取り組むために指導上特に留意したり、配慮したりすること、教師の出番や間合いの取り方などを具体的に書く。

※ 上記（1）～（3）の3つがバラバラにならないように書くことが必要。

※ 児童観を先に書き、それを踏まえて教材観、指導観と記載する場合もある。

※ 校内研究等の内容によって、強調して書く部分等がでてくる場合がある。

### 3 単元の目標

児童に身に付けさせたい力を3つの資質・能力ごとに記述する。

（1）知識及び技能の目標

（2）思考力、判断力、表現力等の目標

（3）学び向かう力、人間性等の目標

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料〔令和2年3月〕 〔国立教育政策研究所〕第2編「評価規準に盛り込むべき事項等」を参考にする。		

5 指導と評価の計画（〇〇時間扱い）＜単元指導の展開構想を明確に示す＞

時 (本時)	学習活動	評価規準と評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
第1次	児童の立場で 表記する。  (～を考える。 ～を解く。 ～を理解する。 など)		○ ～を考え、具体物や図などを用いて表現している。 [観察、ノート分析]	○～を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 [観察、ノート分析]
第2次 (本時)			◎ ～について考えている。 [観察・ノート分析]	
第3次		○～の計算が確実にできる。 [ノート分析]		
第4次			○～について考えている。 [観察、ノート分析]	◎～について考えようとしている。 [観察、ノート分析]
第5次		◎ ～を解くことができる。 [ペーパーテスト]		

※ 評価規準は、1時間当たり、多くても2つ程度である。

◎は、総括の資料とするため、全ての児童の学習状況を評価して記録に残す。

○は、主に「努力を要する」児童を確認し、その後の指導に生かすための評価の機会とする。

※ 目標に到達しているかどうかを確認する評価問題・評価手段を準備する。付けたい学力の性質によって評価方法・手段は変わる。

※ 学校によっては、下記のように指導計画のみ記載している場合がある。

(参考：指導計画（〇〇時間扱い）)

例： 第1次 ○○ ……○時間  
 第2次 ○○ ……○時間（本時○／○）  
 ○○ ……○時間

## 6 本時案

(1) 題目 1時間の学習のまとまりを端的に示す(名詞止め、問いかけ、表現活動等)

(2) 本時のねらい

A: 学習内容(～を、～について)、

B: 学習活動(○○を通して、○○でまとめて、○○と比べて)、

C: 育成を目指す資質・能力(△△できるようにする。)

※A、B、Cの3つの要素を入れる。

(3) 展開(○分)

学習活動	時	指導内容及び指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
ねらいを達成するために行う活動を、活動のまとまりで書く。 ※児童の立場で書く。 *話し合う *出し合う *考える *作る *調べる 等 ※活動は番号をつける。 (順序制がある) ※あいさつをするなどはいれない。	分 単 位 で 記 述	○や・であらわす。 ○は中心的な働きかけや手立て(指導内容) ・は出方の予想や補助的な働きかけ。 ※次のような事柄について書く。 [例] *学習のきっかけ作り *問いかけ(課題提示) *各自のやり方・試行・作業などのさせ方 *どこまで進んだら発表させるか *出してきた答えや根拠の整理・まとめ方 *ずれ・矛盾・疑問点を明らかにしていく方法 *個の力にあった多様な方法を想定しておき、実際に即して指導していく方法 *より良い考えを選び出したり、作り上げたりしていくときの手立て *発展・応用していく方法 *次の時間へのつなぎ方・・・など	※指導計画等に位置付け、本時に該当する評価規準を、該当箇所に記述する。 ※評価方法も( )で明記する。 ※評価に関連した留意事項等があれば記述も可。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             本時の「ねらい」と評価規準を連動させて設定する。           </div>
本時の「課題」と「まとめ」は <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 40px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span> で囲む		※ 教師の一方的な指導と思われる記述ではなく、児童・生徒の主体的な姿が表れた記述にするとよい。	※評価は、1～2が適当である。

- \* 生徒指導を中心に据えての教科指導であれば、生徒指導の3機能を考えた活動が盛り込まれた事柄が書かれているようにする。また、「指導上の留意点」とするよりも「支援の方法」「指導・援助の留意点」などとし、上記のことに配慮した内容になるようにする。
- \* 活動の場の在り方を中心に研究していれば「どのような活動を」「どのような目的で」「どのように仕組むか」などが書かれている必要がある。
- \* 評価の研究であれば、「どこで」「何のために」「どのような評価をして」「それをどのように生かすか」などを書く必要がある。
- \* 評価の欄については、「生徒指導上の配慮点」「評価とその生かし方」「活動の場での配慮点」などの設定も考えられる。

学校独自の学習過程や研究内容にあった指導案づくりをすることが大切。

※ただし、どの学校に行っても対応できるように、汎用性のある指導案を作成できるようにしておくことが重要である。



## 小学校理科学習指導案（例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日  
 第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
 〇年〇組 〇名  
 指導者 〇〇 〇〇〇

## 1 単元名

## 2 単元設定の理由

## (1) 「教材観」

教材の価値・意義付け、および学習内容の系統を踏まえた位置付けなどを記述する。

## (2) 「児童観」

児童の関連既習事項に対する興味・関心、知識や技能、思考力、判断力、表現力などの実態を、日頃の学習活動やアンケート結果などをもとに記述する。

## (3) 「指導観」

(1) と (2) を踏まえて、学習形態、観察・実験方法、ワークシートの工夫、ICT 機器の活用など、指導の手立てを具体的に記述する。

## 3 単元の目標

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

## 4 単元の評価規準 ※第3学年「太陽と地面の様子」の例

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに評価規準を設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを理解している。	① 太陽と地面の様子との関係について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。	① 太陽と地面の様子についての <u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。</u>
② 地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることを理解している。	② 太陽と地面の様子との関係について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	② 太陽と地面の様子との関係について <u>学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</u>
③ 太陽と地面の様子との関係について、 <u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u>		

## 【「評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント】

## ○「知識・技能」のポイント

- 「知識」については、学習指導要領の「2 内容」における知識に関する内容である（ア）、（イ）などの文末を「～を 理解している」として作成する。
- 「技能」については、「器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している」として作成する。

## ○「思考・判断・表現」のポイント

- 「思考・判断・表現」については、学習指導要領の「2 内容」における思考力、判断力、表現力等に

関する内容の文末を「～表現するなどして問題を解決している」として作成する。

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、「…についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。学んだことを学習や生活に生かそうとしている」を用いて作成する。

5 指導と評価の計画

- ・ 観点別の学習状況を全ての児童分を記録に残す場面等を精選するためには、単元（題材）のまとまりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、タイミングや方法等を意図的・計画的に考えておくことが重要である
- ・ 日々の授業の中で児童の学習状況を把握して指導の改善に生かすことは重要であるため、児童全員の観点別の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が特徴的な児童の学習状況を確認（メモを含む）する必要がある。
- ・ 重点：重点的に児童の学習状況を確認する観点  
知…知識・技能、思…思考・判断・表現、態…主体的に学習に取り組む態度
- ・ 記録：○は、備考に記入されている評価規準に照らして、児童全員の学習状況を記録に残す場面  
※：第3学年で主に育成を目指す問題解決の力は「思考・判断・表現①」で評価するため、第9時での「思考・判断・表現②」の観点は、特徴的な児童の学習状況を確認し、今後実施する別単元と合わせて児童全員の観点別の学習状況の評価を行うよう計画した。

指導と評価の計画：第3学年「太陽と地面の様子」の例

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	○影ふみをするために、影について知っていることを出し合う。 ○影についてもっと詳しく知るために、屋外に出て、影の写真を撮る。 ○班ごとに撮影した写真を比較し、各自が問題を見いだす。	思		思考・判断・表現①/【記述分析】 ・差異点や共通点を基に、問題を見いだすことができているかを確認する。
2	○各自が見いだした問題を基に、学級共通の問題を設定する。 <b>問題</b> ：かげはどのようなところのできるのだろうか。 ○複数の物を比較しながら調べ、影の形や長さ、向きなどを記録する。 <b>結論</b> ：かげは、日光をさえぎる物があると太陽の反対側ができる。	知	○	知識・技能③/【記録分析】 ・椅子やカラーコーンなどを用いて、太陽の位置と影との関係を調べ、影の形や長さ、向きなどを分かりやすく記録しているかを確認する。
3	○影ふみを午前と午後の2回行い、体験したことを基に、自分なりの問題を見いだす。 ○どのようにしたら影ふみがうまくできるのかについて話し合う。	思	○	思考・判断・表現①/【記述分析】 ・影ふみについての差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現しているかを評価する。
4	<b>問題</b> ：時間がたつと、かげの向きはどのように変わるのだろうか。 ○方位磁針や遮光板を正しく扱いながら、影の動きを観察し、記録する。	知		知識・技能③/【行動観察・記録分析】 ・時間ごとの影の動きについて、方位磁針などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。
5	○調べたことを基に考察し、学級で結論を導き出す。	知		知識・技能①/【記述分析】 ・日陰の位置は太陽の位置の変化によって変

	<p><b>結論</b>: 時間がたつと、かげの向きは西から東へ変わる。それは太陽のいちが東から南を通して西へと変わっているから。</p>			<p>わかることを理解しているかを確認する。</p>
6	<p>○影ふみの振り返りを行う。 ○安全地帯(建物によってできる日陰)に入ったときのことについて感じたことを発表する。 ○屋外に出て、日なたと日陰の違いを体感する。</p>	態	○	<p>主体的に学習に取り組む態度①/ <b>【行動観察・発言分析】</b> ・太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら、問題解決しようとしているかを評価する。</p>
7	<p>○調べた明るさ、暖かさ、涼しさ、湿り具合などについて話し合う。 ○調べた日なた日陰の違いを基に、各自が問題を見いだす。</p>	思	○	<p>思考・判断・表現①/<b>【記述分析】</b> ・日なたと日陰の地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現しているかを評価する。</p>
8	<p><b>問題</b>: 日なたと日かげの地面のあたたかさには、どのようなちがいがああるのか。 ○午前 10 時と正午の2回に分けて地面の温度を計測し、結果を分かりやすく記録する。</p>	知	○	<p>知識・技能③/<b>【行動観察・記録分析】</b> ・太陽と地面の様子について、放射温度計などを正しく扱いながら調べ、結果を分かりやすく記録しているかを評価する。</p>
9	<p>○観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、日なたと日陰の違いについてまとめる。 <b>結論</b>: 日なたの地面は太陽によってあたためられるから、日なたの地面の温度は日かげの地面よりも高い。</p>	思※		<p>思考・判断・表現②/<b>【記述分析】</b> ・太陽と地面の様子について、観察、実験などから得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決しているかを確認する。</p>
10	<p>○時間とともに、影はどのように動くのか、日なたと日陰にはどのような違いがあったのかなど、学習したことをまとめ、影ふみのコツを考える。 ○これまでに学習したことを基に、「かげふみブック」を作成する。</p>	知	○	<p>知識・技能①②/<b>【記述分析】</b> ・日なたと日陰では地面の暖かさや湿り気の違いがあることや日陰は太陽の光を遮るとでき、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わることを、これまでの学習とつなげて理解しているかを評価する。</p>
11	<p>○作成した「かげふみブック」を参考に、再度、影ふみをする。 ○「かげふみブック」を見直す。</p>	態	○	<p>主体的に学習に取り組む態度②/ <b>【行動観察・記述分析】</b> ・太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価する。</p>

## 6 本時案

(1) **題目** その時間に取り組む学習テーマを端的に示す

(2) **本時のねらい** 3つの要素を踏まえて指導者の立場で書く。

A 学習内容 (～を、～について)

B 学習活動 (○○を通して、○○と比べて等)

C 育成を目指す資質・能力 (△△できるようにする。△△を高める等)

(3) **展開**

展開の書式

学 習 活 動	時間	指導上の留意点	評価
◇児童の学習活動を書く。		◇教師が学習活動を充実させるために何をするのかを具体的に書く。	◇評価規準、評価方法を書く。
課題等を書く			
		◇予想される児童の反応と教師の手立てについて、具体的に書く。 ◇観察・実験で使用する材料、器具等を書く。	
まとめ等を書く			

(引用文献)

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和2年3月）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』

# 第 学年 生活科学習指導案（例）

日 時 令和〇年〇月〇日

場 所 〇〇〇〇

指導者 〇〇 〇〇

## 1 単元名

（例）いきもの 大すき 内容（7）「動植物の飼育・栽培」 内容（ ） 「 」

◇複数の内容で単元を構成する場合は、全て記入する。（学習指導要領解説生活編 P87 ）

## 2 単元の目標（一つの内容で単元を構成した場合と、複数の内容で単元を構成した場合）

教科の目標や学年の目標を踏まえ、一連の学習活動の「まとめ」としての単元の中で、児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動を示すとともに、そこで育成を目指す「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「知識及び技能の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を具体的に記述する。

（例1） モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付き、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。（1内容1単元）

（例2） 秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。（2内容1単元）

### 【単元の目標を作成する手順】

① 単元を構成する内容について、学習指導要領第2章第5節「2 内容」に示された記載事項を確認する。

② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

※複数の内容で単元を構成する際は、「2 内容」に示されたそれぞれの資質・能力を記載する。

## 3 単元設定の理由

【児童の実態】【教材について】【指導について】等をそれぞれ分けて記入する。

※「指導について」は、学習指導要領解説生活編（平成29年7月）第5章「指導計画の作成と学習指導」に示された内容を参考にする。特に、「学習指導の特質（同解説 P74）」「第3節 単元計画の作成（同解説 P87）」「第4節 学習指導の進め方」が重要である。

### （1）児童の実態

単元を構想し、構成する際には、児童の興味・関心を把握することが必要である。日常生活において、児童はどのようなことに興味を抱いたり関心を寄せたりしているのか、どのような学習を志向しているのか、それらを具体的に捉え、児童の立場から単元を構成する。

### （2）教材について

学習材や学習対象に関わる児童の姿を想定して、教材がもつ可能性を分析し見出すことが大切である。児童の思いや願いが高まる可能性のある対象を選定し、学習材のよさが引き出されるようにすることが大切であるため、その教材のもつ価値等について分析し、児童のとの関わりを踏まえて記述する。

### (3) 指導について

生活科においては、一連の学習活動の「まとめ」としての単元の中で、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていく。活動や体験を行うことが前提ではあるが、見方・考え方を生かして、低学年らしい思考や認識や意欲等を確かに育成し、次の活動へつなげる学習活動を重視する必要がある。例えば、以下の①～④の学習過程を基本にして、単元にふさわしい展開をつくることが重要である。

①思いや願いをもつ②活動や体験をする③感じる・考える④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）

#### 4 単元の評価規準（小単元における評価規準）

(例)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【単元の評価規準を作成する手順】</b></p> <p>(1) 単元の目標を確認する。</p> <p>(2) 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。</p> </div>		
小単元 における 評価規準	1	①	①
	2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(3) 学習指導要領解説において、「内容に関する資質・能力の記載事項」を確認するとともに、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」を参考に、小単元の評価規準を作成する。</p> <p>※単元全体を俯瞰し、評価の観点や評価の場面に偏りがある場合は、必要に応じて単元計画や評価規準等の見直しを行うようにする。</p> <p>※「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」は、国立教育政策研究所から示される参考資料に掲載される予定である。</p> </div>	
	3		

生活科では、特定の知識や技能を取り出して指導するのではなく、児童が具体的な活動や体験を通す中で、あるいはその前後を含む学習の過程において、文脈に即して学んでいく。このことから、評価は、結果よりも活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行われる。学習過程における児童の「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を評価し、目標の達成に向けた指導と評価の一体化が行われることが求められている。そのためにも単元の目標を明確にするとともに、評価計画を立て、評価規準を具体的な児童の姿として表しておくことが大切である。

<育成を目指す資質・能力を踏まえた評価規準作成のポイント>

評価規準を作成する際には、評価の観点に即して、以下のポイントに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>1) 気づきが<b>自覚</b>されること、</p> <p>2) 個別の気づきが<b>相互に関連付く</b>こと</p> <p>3) 対象のみならず<b>自分自身についての気づきが生まれる</b>ことを気づきの質の高まりとして見とることが大切。</p> <p>&lt;知識に関する評価規準(例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の構造を「<b>〇〇に気付いている</b>」、「<b>〇〇が分かっている</b>」などとして作成する。</li> </ul> <p>※〇〇には、知識の具体を記述。</p> <p>&lt;技能に関する評価規準(例)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の構造を「<b>△△において(の際)、〇〇している</b>」などとして作成する。</li> </ul> <p>※△△には学習活動を、〇〇には学習指導要領解説生活編(P14)に示した習慣や技能を参考にして、具体を記述する。</p>	<p>①見付ける、②比べる、③たとえる、などと示された分析的に考えること、④試す、⑤見通す、⑥工夫する、などと示された創造的に考えることを踏まえる必要があることに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の構造を「<b>〇〇して(しながら)、△△している</b>」などとして作成する。</li> </ul> <p>※〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※思考を具体的に表したのものや、具体的な児童の姿は、以下も参考にすることができる。</li> </ul>	<p>1) 「<b>粘り強さ</b>」…思いや願いの実現に向かおうとしていること</p> <p>2) 「<b>学習の調整</b>」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること</p> <p>3) 「<b>実感や自信</b>」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること等を踏まえる必要があることに留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価規準の構造を「<b>〇〇し、△△しようとしている</b>」などとして作成する。</li> </ul> <p>※具体的な学習活動に即して、〇〇には①粘り強さ、②学習の調整、③実感や手応え、に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。</p>

【思考・判断・表現における、思考を具体的に表したものの例】

- ① 見付けて(見付けながら)
  - ・思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など
- ② 比べて(比べながら)
  - ・特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など
- ③ たとえて(たとえながら)
  - ・知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて など
- ④ 試して(試しながら)
  - ・実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながら など
- ⑤ 見通して(見通しながら)
  - ・思い描きながら、予想しながら、振り返って など
- ⑥ 工夫している(工夫しながら)
  - ・生かしながら、見直して など

【具体的な児童の姿として考えられるものの例】

- ・観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる、遊んでいる、交流している、捉えている、知らせている、利用している、伝え合っている、計画を立てている など

## 5 指導と評価の計画（ 時間）

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	評価規準	評価方法
小単元名を 記入する。 (時数)	具体的な学習活動の内容を記入 する	3観点のいずれなのか を記入する。 (例) 【知】①【思】① 【態】① など	具体的な評価方法を記入する。 (例) ・観察カード ・発言分析 ・行動観察 など

◇指導と評価の計画では、内容と育成を目指す資質・能力、児童の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。活動内容や時間数、学習過程をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価規準等についても示すことが求められる。

◇「4 単元の評価規準」とは別に作成する。

◇本時がどこかわかるように（本時）と記入する。

※「主な学習活動」においては、内容と育成を目指す資質・能力、児童の興味・関心などを基に中核となる学習活動を設定する。活動内容や時間数、学習過程をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動に求められる指導のポイントや関連する各教科等の学習内容、評価規準等についても示すことが考えられる。

※単元を構想する際の3つの段階を考慮する。

（発想する段階、構想する段階、計画する段階 学習指導要領解説 P88）

※生活科で単元を構成する際には、体験活動が質的に高まっていくことを大切にする。単に活動や体験を繰り返すのではなく、話し合いや交流、伝え合いや発表などの表現活動が適切に位置付けられることが大切になる。この体験活動と表現活動の相互作用が学習活動を質的に高めていくことにつながる。

※例えば、①～④の学習過程を基本として、単元にふさわしい展開をつくるようにする。

①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）  
（学習指導要領解説 P90）

学習過程は、①～④がいつも順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わることもあるし、一つの活動の中に複数のプロセスが一体化して同時に行われる場合もあることに留意する。



6 本時の展開 (○時間／○時間)

- (1) 本時のねらい
- (2) 展開 (○○分)

学習活動 (◇)	時間	教師の指導・支援	評価規準【 】 評価方法 [ ]
◇具体的な活動を記入する。		○主な学習活動に即した教師の指導や支援を記述する。	【評価の観点を記入する。】 [具体的な評価方法を記入する。]
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">                     本時の課題やめあてを記入する。                 </div>			

◇記号等 (◇・○・【 】・[ ]) は例示である。

※設定した評価規準における具体的な児童の姿を想定することが本時の評価規準のポイントとなる。例えば、  
 ・おもちゃを改良する方法について、友だちのおもちゃと**比べたり**、動きの原因や仕組みを**見付けたり**しながら、  
 アイデアシートに書き込んでいる。 など

## 第2学年 生活科学習指導案（例）

- 1 単元名 「うごくおもちゃけんきゅうじょ」  
(6) 自然や物を使った遊び

### 2 単元の目標

身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや見えない力の不思議さに気付くとともに、みんなで協力して遊びを楽しもうとするようにする。

### 3 単元設定の理由

#### (1) 児童の実態

本学級の子どもは様々なことに興味をもち、活動に意欲的に取り組む。1学期に取り組んだ内容(7)夏野菜のお世話では、「水をたくさんあげているのに、大きくならないよ」「虫が集まってきて困るな」などの困りがでてくると図鑑で調べたり、野菜に詳しい先生にインタビューをしたりする姿が見られた。また、内容(3)お店探検では、グループで話し合いをしたり、役割を決めたり一緒にお店に出かけたりして活動をするものの良さや楽しさを感じることができた。10月には学級で昆虫を育てた(内容(7))。この活動では、昆虫好きのAさんが、みんなに昆虫の飼い方を教え、学級全体で昆虫のお世話に取り組むことができた。「Aさんってすごいね」「Aさんに聞いたら虫のことなんでも教えてくれるよ」「Bさんも詳しいよ」「虫のことをもっと教えて」といった声が聞かれ、AさんやBさんが先生になり、わからない子どもたちはAさんやBさんに聞くといった教えあう姿が見られた。

しかし、自分の作品や自分のものになると没頭するあまりに、友だちと教え合いをしたり、友だちの作品のよさを伝えたりする姿はあまり見られない。体験活動に重点を置き、体験から得た気付きや子ども一人ひとりの思いや願いを伝え合ったり、意見交換したりする場の設定や工夫が必要である。

#### (2) 教材について

身近にある物を利用しておもちゃなどを作り、楽しく遊べるようにおもちゃを改良したり遊び方を工夫したりして繰り返し遊ぶことのできる内容である。

子どもが作りたいと思うおもちゃは多様である。考えを巡らせながら作り直したり、遊び方を考えたりする活動に発展する可能性を秘めている。例えば、ばっちゃんカエルを作って遊ぶ活動一つとってみても、材料の選び方、作り方、遊び方などは子どもによって様々である。その中から、高く跳ばず遊び、遠くへ飛ばす遊び、的に入れる遊びなど、子どもの気付きを生かした新しい遊びが生まれる。そこでは、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことが期待できる。

作り方、遊び方を考えていく中で、対象への関わりから子ども同士の関わりが生まれ、相互にやりとりしながら作り方や遊び方を発展させていく姿が期待できる。そのことが、体験と表現を繰り返していくことにつながるとともに、個別の気付きを関連付けられた気付きへ、対象のみならず自分自身への気付きへと質が高まっていくことも期待できる。

学習指導要領に示された「2 内容」の記述を確認し、具体的な学習対象や活動に即して単元の目標を作成する。

これまでの自然に触れる活動や体験、動植物の飼育栽培、地域の様子や人々への興味や関心の向け方、生活上必要な習慣や技能等について把握する。  
第1学年においては、幼児期の教育においてどのような活動や体験の経験等があるかを、関係機関の協力を得て把握することも大切である。

学習指導要領等を参考に、内容や教材についての分析を行う。  
教材がもつ価値はどのようなものか、教師の十分な教材研究により明らかにする。

### (3) 指導について

この単元では、自分と友だちのおもちゃを比べたり一緒に遊んだりすることで、自分一人では見付けられなかった仕組みに気づき、自分の思いに沿ったおもちゃに近付けるようするとともに、試行錯誤を繰り返し、自分の思いに沿ったおもちゃができたときの達成感や、友だちと協力し合うことよさや素晴らしさを味わわせたい。その際、児童の実態を踏まえ、気づきの質を高めるため、「試行錯誤や繰り返す活動を設定する」「伝え合い交流する場を工夫する」、「振り返り表現する機会を設ける」、「児童の多様性を生かす」ことに特に留意したい。

小単元1では、教師が作った動くおもちゃ（紙トンボ、ジャンピングおもちゃ、ぶんぶんゴマ、トコトコおもちゃ等）でたくさん遊び、動くおもちゃの面白さに気づき、自分も作りたいという意欲付けを図る。その後、作りたいおもちゃをイメージしながら設計図をかき、それをもとに動くおもちゃを作っていく。自分で作ったおもちゃで遊ぶ中で、「思ったように動かない」「もっと”はやく動かしたい」といった思いが出てくる。活動後は、「もっと”よく動くようにしたいな」という思いを研究日記（振り返り）に書いて共有することにより、小単元2につながる。

小単元2では、子どもたちが自分の思いに沿って活動できるように、「作る→試す・比べる→作り直す」といった試行錯誤や繰り返し活動することを大切にする。また、「今日からみんなは『うごくおもちゃけんきゅうじょ』の研究員だよ」と告げ、意欲付けを行う。研究1では、「“もっと”〇〇したい」という活動の見通しを「今日の研究テーマ」として研究日記に書くことから始める。友だちと遊ぶ中で「〇〇さんのおもちゃはまっすぐ動くのに、私のおもちゃは曲がってしまう」「〇〇さんみたいに遠くにとばしたいな」等、比べたり新たな思いが出てきたりすると考えられる。そこで“よく”動くようになった工夫や困りなどを振り返り表現して共有する。

研究会議1を開催し、前時で見付けた工夫や困りを伝え合う。最初に“よく”動くようになったおもちゃを紹介し、「私のおもちゃもみんなに見てもらいたい」といった相談しやすい雰囲気をつくるようにする。その後、“よく”動かないおもちゃの困りをクラス全体で解決していく。両者の違いを比べたり、研究1で見付けた工夫を出し合ったりして、友だちのおもちゃを“よく”動くようにするために話し合う。そこで分かったことや気づきを板書に位置付け、「次はゴムの数を増やしてみよう」「私もテープの付け方を変えてみよう」といった思いや願いを研究2につなげる。

そこで研究2を位置付け、自分が作ったおもちゃが“よく”動くようになるために、自分で遊んだり、友だちと一緒に試したりしながら改良する。「ゴムを太くすると、よくとぶよ」「うさぎみたいな動きをしているよ」など、見えない力の不思議さや面白さに気付くと考えられる。研究2で分かったことや発見したことを研究日記に書き、交流する。

研究会議2では、今までの研究で分かったことを発表したり、おもちゃを紹介し合ったりする。全体で共有することで、自分では見付けられなかったことも、友だちと一緒にすると見付けることができることに気付く。そうすることによって、自分の研究の成果や友だちの研究のよさを深く実感できると考える。

小単元3では、改良したおもちゃを使った遊びやルールを工夫して、友だちと楽しく遊ぶ。自分が作ったおもちゃに加え、違う種類のおもち

内容(6)については解説P41~を参照。

学習指導の進め方については解説P94~を参照。

具体的な活動や体験を通じて気付いたことを基に考え、気づきを確かなものとしたり、新たな気づきを得たりするために、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」「比べる」「たどる」「試す」「見通す」「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視する。

#### 【学習指導のポイント】

- 1 試行錯誤や繰り返す活動を設定する。
- 2 伝え合い交流する場を工夫する。
- 3 振り返り表現する機会を設ける。
- 4 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする。

(解説P94~)

思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とか豊かに行き来する相互作用を重視する。気づきの質を高めることを意識することが大切である。

やでも十分遊ぶようにする中で生じた「いろいろなおもちゃでもっと遊んでみたな」「みんなで楽しく遊びたいな」「みんなのおもちゃで遊びたいな」等という気持ちから、おもちゃ広場への意欲につなげる。みんなが楽しめるような広場にするにはどうすればよいか話し合ったり、アドバイスをしたりしながら計画的に準備を進める。おもちゃ広場を開いた後は感想を交流し合う。自分たちが研究し続けたおもちゃを使って楽しく遊ぶ友だちを見たり、友だちが研究した楽しいおもちゃで遊んだりすることを通して、自分たちの学びのよさを実感したり、達成感がさらに高まったりすることを期待している。

#### 4 単元の評価規準（小単元における評価規準）

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、その面白さや見えない力の不思議さに気付いている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくっている。	身の回りにある材料を利用して動くおもちゃを作ったり、遊んだりする活動を通して、みんなで協力して遊びを楽しもうとしている。
小単元における評価規準	1	① 身近にある材料を利用して、動くおもちゃを作って遊べることに気付いている。	① 自分の関心のあるおもちゃを見つけて、楽しく遊ぼうとしている。 ② 動くおもちゃ作りに関心を持ち、粘り強くおもちゃを作ろうとしている。
	2	② 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したたりする面白さに気付いている。	③ “よく”動くおもちゃへのおもいや願いをもち、友達のよさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、おもちゃを作ろうとしている。
	3	③ みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④ 友だちと関わりながら、みんなで楽しく遊ぼうとしている。

#### 5 指導と評価の計画（全18時間）

小単元名（時数）	主な学習活動	評価規準	評価方法
1 動くおもちゃを作って遊んでみよう。（6時間）	<p>[小単元1の目標] 「こんなおもちゃを作りたい」という願いをふくらませ、工夫しながらおもちゃ作りに取り組むようにする。</p> <p>○教師が用意した動くおもちゃで遊んでみる。遊んだおもちゃの中から、自分が作ってみたいおもちゃを選ぶ。 遊んだ感想や、作りたいおもちゃについて書く（2時間）</p> <p>○作りたいおもちゃの設計図を作る。（1時間）</p> <p>○設計図をもとにおもちゃを作る。（3時間）</p> <p>作ったおもちゃで遊んでみる。最後に「もっと」○○したい」という願いをもてるようにする。</p> <p>※国語科において、作る時のことや遊んだ時の感想をワークシート（研究日記）に書いておもちゃファイルに綴じる。</p>	<p>態①</p> <p>思①</p> <p>態②</p> <p>知①</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言分析</li> <li>・行動観察</li> <li>・研究ファイル（設計図・研究日記）</li> </ul>

<p>2 もっと動くように工夫しよう (6時間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[小単元2の目標] “よく”動くおもちゃを作るために、友だちのおもちゃと比べたり、アドバイスをし合ったりして、自分の思いに沿ったおもちゃを作ることができるようにする。</p> </div> <p>○(研究1)自分が作った動くおもちゃで遊んだり、友だちと一緒に試したりしながら、“よく”動くようにするために、自分の動くおもちゃを改良していく活動をしていく。(2時間) ※国語科において、発見、工夫、困り等を研究日記に書く。</p> <p>○(研究会議1)自分のおもちゃの工夫や困りを出し合い、よく動くおもちゃと比べたり、アドバイスをしあったりして、自分なりの改良の見通しをもつ。(本時) (1時間)</p> <p>○(研究2)おもちゃを改良しルールを作って遊んだり、さらに“よく”動くように改良したりする。(2時間) ※国語科において、発見、工夫、コツ、がんばり等を研究日記に書く。</p> <p>○(研究会議2)自分が作ったおもちゃの不思議や発見、面白さや楽しさなどを出し合い友だちと交流し合う。(1時間) ※国語科において、これまでの研究を振り返り研究日記を書く。</p>	<p>態③</p> <p>思②</p> <p>思③</p> <p>知②</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言分析</li> <li>・行動観察</li> <li>・研究ファイル (設計図・研究日記)</li> </ul>
<p>3 作ったおもちゃを紹介したり、一緒に遊んだりしよう。 (6時間)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>[小単元3の目標] 作ったおもちゃを紹介したり一緒に遊んだりして楽しく交流し、お互いのがんばりを認め合い楽しく遊ぶようにする。</p> </div> <p>○おもちゃを使った遊びやルールを工夫して、友だちと楽しく遊ぶ活動を行う。(1時間)</p> <p>○グループごとに、ルールを決め必要なものを考え、おもちゃ広場の準備をする。(2時間)</p> <p>○おもちゃ広場で遊ぶ。(2時間)</p> <p>○「動くおもちゃ研究所」の学習を振り返って、思ったことや考えたことを交流し合う。(1時間)</p>	<p>態④</p> <p>思④</p> <p>知③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言分析</li> <li>・行動観察</li> <li>・研究ファイル (設計図・研究日記)</li> </ul>

6 本時の展開（9/17）

- (1) **題目** よく動くおもちゃにするための工夫  
 (2) 本時のねらい それぞれのおもちゃの工夫や困りを出し合い、比べたり、試したりする活動を通して、自分なりの改良の見通しをもつことができるようにする。  
 (3) 展開（45分）

学習活動	時	指導・支援	評価規準
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	5	<p>○前時までに、“よく”動くおもちゃにするために、「うごくおもちゃけんきゅうじょ」の研究者になって活動したことを確認し、本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>動くおもちゃの研究で、見つけた工夫や困ったことを出し合おう。</p> </div> <p>・前時では、研究で分かった“よく”動くための工夫や、困りを付箋に書いて設計図に貼り付けている。                      (ピンクの付箋→発見, 工夫, おすすめポイント                      青の付箋→困ったこと)</p>	思② 発言分析
2 自分の研究の発見, 工夫, 困りを伝え合う。	35	<p>○おもちゃの研究で見つけたこと, 思ったこと, うまくいかないところなどを全体で交流していく。</p> <p>・まず, “よく”動くようになったおもちゃを, 全体で見合う場を設定し, 工夫やおすすめポイントを紹介し合う。</p> <p>・“よく”動くおもちゃとそうでないおもちゃ, 同じ種類の動きがちがうおもちゃを比べながら, 違いや仕組み, 動きの不思議さに気付いていけるようにする。</p> <p>・“よく”動かないおもちゃの困りを共有し, クラス全体で解決に向けて意見を出し合い, 実際に改良していく。</p> <p>・出てきた工夫点を板書に位置付ける。</p> <p>・友だちが作ったおもちゃの工夫を聞き, そのよさをみんなで共有し認め合えるようにする。</p>	
3 次時にやりたいことを付箋紙に書き(振り返り), 設計図に貼り付ける。	5	<p>○友だちの発表を聞いたり板書を見たりして, 自分なりの改良点を見つけてピンクの付箋紙に書き, 設計図に貼り付け, 改良後どうしていきたいのか確かめ, 振り返りをする。</p>	

○設定した評価規準における具体的な児童の姿を想定することがポイントとなる。例えば、  
 ・おもちゃを改良する方法について、友だちのおもちゃと**比べたり**、動きの原因や仕組みを**見付けたり**しながら、アイデアシートに書き込んでいる など

## 第〇学年音楽科学習指導案（例）

期 日：令和〇〇年〇月〇日

時 間：第〇校時

対 象：〇年〇組〇〇名

授業者：〇〇 〇〇

### 1 題材名

「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」

### 2 題材設定の理由

- (1) 児童生徒観
- (2) 教材観
- (3) 指導観

### 3 題材の目標

「荒城の月」「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむようにする。

### 4 学習指導要領の指導事項

第2学年及び第3学年 A表現（1）歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ（ア）曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

[共通事項]

本題材において思考・判断のよりどころとなる要素・・・「リズム・速度・旋律・強弱」

### 5 教材名

➤ 思考・判断のよりどころとなる要素は絞り込む。（教材で取り扱える全ての要素を記入しない。）

➤ 「題材名」と「興味・関心をもたてたい事柄」の整合性をとる

### 6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
※1 A表現領域は、原則、「 <u>知識</u> 」「 <u>技能</u> 」を分けて記載。 ※2 B鑑賞領域は、「知識」のみ記載。	※3 <u>思考・判断のよりどころとなる要素を選択</u> し、評価規準を作成。	※4 <u>興味・関心をもたせたい事柄</u> を記載し、評価規準を作成。

※令和2年度について、中学校は移行期間のため、現行の4つの観点で設定する。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「荒城の月」, 「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。</li> <li>● 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声, 言葉の発音, 身体の使い方などの技能を身に付け, 歌唱で表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「荒城の月」, 「早春賦」のリズム, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 「早春賦」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心を持ち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

## 7 指導と評価の計画 (○時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
1	◆「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。 ○「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。 ・「荒城の月」, 「早春賦」のCDを聴いて印象などを自由に話し合う。			
2	◆ ..... ○ ..... ・ .....	知※ (ワークシート)	思※ (ワークシート)	
3	◆ ..... ○ ..... ・ .....	技※ (歌唱)		態※ (観察)

※全員の学習状況を記録に残す場面として設定する。

## 8 本時案

- (1) 本時のねらい
- (2) 展開 (○分)

学習活動	時間	指導上の留意点	評価 (方法)



# 美術科（図画工作）学習指導案（例）

令和〇年〇月〇日〇曜日

第〇校時 〇時〇分～〇時〇分

〇年〇組 〇名

指導者 〇〇 〇〇

## 1 題材名

題材の入り口。どんな活動を通して、どんなことが学べるのかが分かる題材名にする。「焼き物をつくろう」→「おもてなしの器をつくろう」

## 2 題材の目標

- ・
- ・
- ・

本題材を通して児童生徒に身に付けさせたい力を指導者の立場で記述。「～できるようにする」等

(知識及び技能)  
(思考力、判断力、表現力等)  
(学びに向かう力、人間性等)

## 3 題材設定の理由

### (1) 教材観

○題材の本質的な部分、特徴、題材としての価値、付加価値について述べる。

- ・本題材でのねらいや、取り扱い意義や扱うことで得られる学習効果。
- ・本題材が、指導するクラスの児童生徒に適していると考えられる根拠。

### (2) 学習者観（児童生徒観）

○学級の児童生徒の本題材に関係する分野についてのレディネスや学習状況。

- ・これまでの美術の学習や日常での観察、アンケート等に基づいて記述。
- ・美術の授業に対して、どのような態度で臨むことができているか、どれだけの表現の力や鑑賞の能力を身に付けているか。また、どのような能力や態度を身に付ける必要があるか。

### (3) 指導観

○本題材で目指す力を身に付けさせるための指導の手立て、工夫を書く。

- ・指導法や制作上の技法や素材、学習形態等の工夫によってどんな力が身に付く（できるようになる）と考えられるか。
- ・制作途中での見直しや、完成作品の活用、展示の工夫、指導者や児童生徒による相互評価によって得られる学習効果。

## 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「知識」について ・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。	・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。	・文末は、学習状況进行评估ことや児童の意志的な側面も評価することから「～しようとしている」とする。
「技能」について ・文末は、学習の状況进行评估することを踏まえて「～している」とする。		

5 指導と評価の計画 (総時数●時間)

【 小学校 図画工作例 】

時	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。</li> <li>・のこぎりを適切に扱う。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 知	<input type="checkbox"/> 技				【観察】
2						<input type="checkbox"/> 態	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切った(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。</li> </ul>			<input type="checkbox"/> 発			【観察】 【対話】 【作品】
4				<input type="checkbox"/> 発			
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。</li> <li>・作品カードに自分の作品のよさや面白さ、表し方の工夫などについて書く。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 知	<input type="checkbox"/> 技				【観察】 【対話】 【作品】
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。</li> </ul>				<input type="checkbox"/> 鑑	<input type="checkbox"/> 態	【観察】 【対話】 【作品】 【作品カード】

【 中学校 美術例 】

時	学習活動	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価の方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花」がテーマの作品を鑑賞し、作者の意図や表し方などについて意見を述べ合いながら、主題と表現の工夫との関係について考え、形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージで捉えることを理解する。</li> <li>・花を選んだ理由を考え、花や葉の形や色彩の特徴などから感じたことなどを言葉で書き表しながら、主題を生み出す。</li> <li>・主題を基に、画面全体と花や葉との関係を考え、創造的な構成を工夫し構想を練る。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 知					【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】 【アイデアスケッチ】
2				<input type="checkbox"/> 発		<input type="checkbox"/> 態	
3		<input type="checkbox"/> 知					
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら、自己の構想に基づき、筆致や濃度等を変え、様々な表し方を試す。</li> <li>・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また、制作の途中に鑑賞を行い、他者の作品を見たり自分の意図を説明したりすることで、より表したいものを明確にしていくなどしながら作品を完成させる。</li> </ul>		<input type="checkbox"/> 技				【試作の作品】 【活動の様子】 【制作途中の作品】 【完成作品】
5				<input type="checkbox"/> 発		<input type="checkbox"/> 態	
6			<input type="checkbox"/> 技				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの完成作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明し合う。</li> <li>・第一次とは異なる「花」をテーマにした作家の作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した体験から、新たな見方や感じ方を広げる。</li> </ul>				<input type="checkbox"/> 鑑	<input type="checkbox"/> 態	【ワークシート】 【発言の内容】 【活動の様子】
					<input type="checkbox"/> 鑑	<input type="checkbox"/> 態	

※  児童生徒の学習状況を把握して指導に生かす。  全員の学習状況を把握し、記録に残す。

## 6 本時案

(1) 題目：(例) 切った木を組み合わせて ※その時間に学習する内容を端的に示す。

### (2) 本時のねらい

この1時間で、①どのような学習を通して、②児童生徒にどのような内容を学ばせ、③どのような資質・能力を育成することを目指すのかを指導者の立場で書く。

### (3) 展開

学 習 活 動	時間	指 導	●評価規準・【評価方法】
1 ※児童生徒の学習活動 『～する。』		○ ・ ※教師の活動は『～する。』 児童生徒に対する指示は 『～させる。』	①評価規準・評価方法を書く。 ※評価項目は1単位時間に1～2項目が現実的。 (多すぎても評価できない)  ②学習形態や資料等についても書く。

1時間の流れのなかで、ねらいと学習活動、指導、評価規準に整合性がある

※「題材の評価規準」や「指導と評価の計画」「本時案の展開」等の様式は学校や研究会に合わせてアレンジしてよいが、以下のことに留意して作成すること。

- ①指導内容が「題材の目標」や「題目」を実現するための手立てになっているか。
- ②指導したことを評価する形で評価規準が設定されているか。

第 学年 体育科学習指導案

日時：令和 年 月 日（ ） 校時  
 場所：〇〇市立〇〇小学校 体育館  
 対象：〇年〇組 〇名  
 指導者：(職名) 〇〇 〇〇

1 単元名 「 領域名 」

※例 「ボール運動」：ゴール型（サッカー）

2 単元の目標

- 
- 
- 

(知識及び技能)  
 (思考力、判断力、表現力等)  
 (学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。語尾は、**指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。**

※教科の目標と評価の観点を混同しない。

教科の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

3 指導にあたって

(1) 単元観

①指導者から見た特性

- ・運動の形式や技術の仕組み、系統性など
- ・児童の心身の発達に与える効果など

②児童から見た特性

- ・その運動を学ぶ意義やその運動をどのように楽しめるかなど

(2) 児童観

①学習の経験状況、興味・関心、意欲、学び方の状況、技能の習得状況

②体力実態、質問紙調査結果、男女数

③本単元における児童のよさと課題の整理

必要に応じて記載する。

(3) 指導観

①「単元観」「児童観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど

②（研究テーマとの関連）

③単元を通して、児童に付けさせたい力

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
(国立教育政策研究所) から引用すること

#### 4 内容のまとめりごとの評価規準及び単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	内容のまとめりごとの	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識と技能に分けて設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考・判断と表現に分けて設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。</li> </ul>
	単元の評価規準	① 評価規準の語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」)、「～しようとしている」(主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外)と表記する。 ② ※児童や学校の実態を踏まえ、各学校・授業者で作成すること ※2学年にわたって指導する場合は、2学年分の評価規準を作成し、何をどの学年で評価するのかがわかるように表示すること。		

#### 5 指導と評価の計画

(1) 単元指導計画と評価計画 (2学年分)  
(○年生)

※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
0	※学習指導要領解説は、2年間のまとめりごとに目標及び内容が示されているため、各単元における指導も2年間を見通して計画することが望ましい。 ※2年間で指導する際には、「単元指導計画と評価計画」も2年間を見通して立てる。							
45								
知・技								
思・判・表		②						
態度								

(○年生)

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
0	※評価は原則1時間に1～2つとし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないように工夫する。 ※「技能」及び「思考・判断・表現」の評価は、指導後一定時間経過後の評価をする方がより確実。 ※「知識」(保健を含む)及び「態度」の評価は、指導した日に評価することも可能。							
45								
知・技								
思・判・表		②						
態度								

2年間を見通した指導・評価計画を作成することで、系統的な指導ができ、未履修や学びの空白がなくなります。

※授業を行う学年のみ作成する。

(2) 指導と評価の計画 (〇年生)

時	めあて・学習活動	評価計画及び評価方法		
		知・技	思・判・表	態度
1	めあて 1 2 3	① 学習 カード		
2	めあて 1 2 3			① 観察
3	めあて 1 2 3	② 観察		
4	めあて 1 2 3		② ワーク シート	
5 (本時)	めあて 1 2 3	③ ICT 機器		
6	めあて 1 2 3			

※授業を行う学年のみ作成する。

6 指導内容及び単元の評価規準 (〇年生)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">指導内容</div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">単元の評価規準</div>	<p>※学習指導要領解説を参照のこと</p> <p>(上) 指導すること、 (下) 評価すること、 ※4にある「単元の評価規準」を用いる。</p>	

7 本時の展開 (○時間目/○時間中)

(1) 本時のねらい

※教師の立場で記入する。

(2) 本時の学習評価

・「4 単元の評価規準」から該当するものを引用する。(評価項目)

(3) 学習過程

時間	学習内容及び学習活動 ◆指導上の留意点	評価規準及び評価方法
はじめ ○分	1 集合、あいさつ、健康観察 2 用具の準備、準備運動 3 本時のねらいと評価項目の確認 めあて： 評価：上記の(2)と同じ表記 (評価項目)	※児童の立場で記入する。
なか ○分	4 活動Ⅰ ○ ・ ◆ 5 活動Ⅱ ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。	おおむね満足 十分満足 ※「A」は「B」より質的な高まりを意識して設定する。 努力を要する児童への手立て (観察)
まとめ ○分	6 本時の振り返り 7 整理運動、用具の片付け、あいさつ	※「C」となる児童の姿を想定し、指導の具体的な手立てを記入する。

※本時のねらい(児童のめあて)、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること。

※ボリュームイメージ案(全5ページ)

(1ページ) 1~3

(2ページ) 4、5(1)

(3ページ) 5(2)

(4ページ) 6

(5ページ) 7

1 指導する内容 = 【学習指導要領解説(例示)】を参照

2 指導する内容 = 評価の内容

3 例示にある内容をどんな方法で教えるのか = 「まるわかりハンドブック」(文部科学省)等の指導書を参照。

指導案の作成例（小学校）

第 学年 体育科（保健領域）学習指導案

※「大項目」を単元・内容のまとめりとし  
てとらえる。

例：大項目「体の発育・発達」

日時：令和 年 月 日（ ） 校時

場所：〇〇市立〇〇小学校 〇年〇組教室

対象：〇年〇組 〇名

指導者：（職名）〇〇 〇〇

1 単元名 「体の発育・発達」

2 単元の目標

○

○

○

※技能がない単元は知識のみ。学習指導要領解説に合わせる。

（知識）

（思考力、判断力、表現力等）

（学びに向かう力、人間性等）

※学習指導要領解説の口囲みを参考に示す。語尾は、**指導者の立場で書き、「～できるようにする。」と記載する。**

※「学びに向かう力、人間性等」の目標は、学年の目標を参考に作成する。

※「**指導と評価の一体化**」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）【評価規  
準に盛り込むべき事項】から、○「知識（及び技能）」、○「思考力、判断力、表現力等」、○  
「学びに向かう力、人間性等」の内容を記載する。

※教科の目標と評価の観点を混同しない。

教科の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

3 指導にあたって

（1）単元観

①指導者から見た特性

②児童から見た特性

（2）児童観

①学習の経験状況、興味・関心、**意欲、学びの状況、男女数**

※必要に応じて記載

②本単元における児童のよさと課題の整理

③質問紙調査や調査結果（客観的な数値も交えて）を具体的に記載する

（3）指導観

①「単元観」「児童観」を踏まえた指導の方向性及び具体的な指導の手立てなど  
（協議主題との関連も踏まえて記載する）



※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料  
(国立教育政策研究所) から引用すること。

#### 4 内容のまとめりごとの評価規準及び単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
まとめりごとの 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>知のみ→～している。</li> <li>知と技→1文にする。 「言ったり書いたりしているとともに、～ができる。」</li> </ul> ※指導要領解説に合わせ	①見付ける。 ②思考・判断・表現の内容	「粘り強く」と「自己調整」を一緒に見取るため、1文にする。
単元の 評価規準	① ② ③ アイウで書かれていることを3つにする。	① ② 評価規準の語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断・表現、「～しようとしている」(主体的に学習の取り組む態度)と表記する。  ※児童や学校の実態を踏まえ、同資料の【評価規準の設定例】を参考に、各学校で作成すること。	①

#### 5 指導と評価の計画(〇〇時間)

時間	ねらい・学習活動	知	思	態
1	【ねらい】 〇 ※ねらいは教師の立場から書く。 1 ※学習活動を書く。 2 3 4	①観察		
2 時	【ねらい】 〇 ※評価は原則1時間に2観点以下とし、複数の評価を設定する場合には、評価方法が重複しないようにすること。 1 2 3 4	②観察	①カード	
3	【ねらい】 〇 ※学習活動には主な児童の活動を記述。 ※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。 1 2 3 4	③観察	②カード	
4	【ねらい】 〇 1 2 3 4	④カード		①観察

※「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体で評価していくため破線で示している。

※「知識・技能」「思考・判断・表現」については、各授業後や単元終了後に学習カードやノートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができる。

6 本時の学習（○／○時間）

(1) 本時のねらい（※指導者の立場で書く）

- ・～することができるようにする。

(2) 本時の学習評価（※学習活動に即した評価規準から引用）

(3) 展開

時間	学習内容及び学習活動 ◆指導上の留意点	評価規準及び評価方法
導入 ○分	<p>1 前時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の変化には年齢に伴うものや、個人差があることを学んだことを振り返る。</li> </ul> <p>2 本時のねらいと評価項目の確認</p> <p>めあて：○○○○○○○○○○○○○○しよう（※児童の立場で書く）</p> <p>評価：上記の（3）と同じ表記（評価項目）</p>	<p>※学習内容を身に付けるための活動を時系列で示すこと。</p>
展開 ○分	<p>3 男女の変化について各自で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人に近づく男女の体つきなどの変化について、付箋紙に書き、ワークシートに分けて貼っていく。</li> <li>◆前半の学習や生活体験などを基に、各自で予想し、男女の変化の特長について書くよう説明する。</li> </ul> <p>4</p> <p>※学習活動に沿って、教師の指導・支援上の配慮事項などを書く。</p> <p>※「習得場面」と「活用場面」を学習状況に応じて設定すること。</p> <p>○思春期には、体つきに変化が起こり、男女の特徴が現れること</p> <p>○変化の起こり方は、人によって違いがあること</p> <p>5 学習したことを生かして、アドバイスを考え、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体の成長に不安を感じている児童の事例を用いて、アドバイスを考えて記入する。</li> </ul>	<p>おおむね満足</p> <p>※評価規準の判定基準「B」を明記する。</p> <p>※目指す姿がB評価のため1番上に書く。</p> <p>十分満足</p> <p>※「A」は「B」より質的な高まりを意識して設定する。</p> <p>努力を要する児童への手立て</p> <p>・</p> <p>(ワークシート)</p> <p>※「努力を要する」状況（C）と判断した児童への具体的な手立ても記す。</p>
まとめ ○分	<p>6 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を振り返り、学習カードに記入する。</li> <li>・学習の成果やまとめなどを発表する。</li> </ul>	

※本時のねらい（児童のめあて）、学習内容及び活動、評価規準及び評価方法を関連付けること

# 学習指導案の形式例（小学校 家庭）

## 〇〇小学校 第〇学年 家庭科 学習指導案

令和〇〇年〇月〇日〇曜日  
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
〇年〇組 〇名  
指導者 〇〇 〇〇〇

### 1 題材名

- ※ 単元または主題と記載する例もあるが、小学校家庭では「題材」とする。
- ※ 該当する内容（項目）を全て明記する。

（例）題材名 「おいしくつくろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁」  
「B衣食住の生活」（1）「食事の役割」ア  
（2）「調理の基礎」ア（ア），（ウ），（オ）及びイ

### 2 題材設定の理由（指導の立場）

- ※ 題材を設定した趣旨を，児童観・教材観・指導観の3つの観点から記述する。
- ※ 3つの観点がバラバラなものにならないようにする。

#### （1）児童について

題材に関連する児童の生活経験や生活実態，教師から見た生活における問題点などを明らかにする。また，この題材に関する児童の既習知識や既得技能，興味・関心の対象や程度，授業時に予想される児童の反応などから，この題材を構成する教育内容が発達段階から見て適切かなどについて記述する。

#### （2）題材について

題材を構成する教材の解釈について記述する。この教材が児童の発達とよりよい家庭生活及び地域社会の創造にどのように寄与するかなど，意義や教育的価値について明らかにする。児童に付けたい力もこの中に含まれる。

#### （3）指導について

児童観・教材観との関連を基盤に，本題材の指導にあたって配慮すべき事項について述べる。何をねらいとし，どのような指導手順で，特色ある指導を展開しようとするのか，という授業者の考えや指導方針，独自の工夫や資料・教具などに関して記述する。

### 3 題材の目標

- ※ 学習指導要領に示された教科の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定する。
- ※ 題材の指導を通して，どのような資質や能力を育成したいか「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の面から明らかにする。

### 4 題材の評価規準

- ※ 「内容のまとまりごとの評価規準（例）」から題材において指導する項目及び指導事項に係る部分を抜き出し，評価の観点ごとに具体化，整理・統合するなどし，3観点別に作成する。
- ※ 「内容のまとまりごとの評価規準（例）」については，『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、令和2年3月）を参照のこと。

## 5 指導と評価の計画（ ○○ 時間 ）

- ※ 『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所教育課程研究センター、令和2年3月）を参照のこと。
- ※ 評価規準については、「内容のまとまりごとの評価規準（例）」における題材において指導する項目及び指導事項に関係する部分を参考にする。
- ※ 評価方法（学習カード，記録表，行動観察，ポートフォリオ等）も明記する。
- ※ 本時に当たる部分分かるように示す。

小題材	時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		○…（ねらい）… ……（学習活動）… <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 10px;">文末表現の例</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～を（～について）理解している。</li> <li>・～を（～について）理解しているとともに、適切にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～について問題を見いだして課題を設定している。</li> <li>・～について考え，工夫している。</li> <li>・～についての課題解決に向けた一連の活動について，考えたことを分かりやすく表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～について，課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・～について，課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。</li> <li>・～について工夫し，実践しようとしている。</li> </ul>
自分の食事を見つめよう	1 （本時）	（例） ○食事の役割と日常の食事の大切さについて理解するとともに，米飯及びみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることを理解することができる。 ・日常の食事を振り返り，食事の役割について話し合う。 ・外国の食卓と日本の食卓の写真を比較し，米飯とみそ汁を日常的に食べている理由や米飯とみそ汁のよさについて考える。	（例） ①食事の役割が分かり，日常の食事の大切さについて理解している。 <b>・学習カード</b> <b>*ペーパーテスト</b>		
	2	（例） ○米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見いだし，おいしく食べるための課題を設定することができる。 ・DVDや家庭で調べてきたことをもとに，米飯とみそ汁の調理の仕方について，疑問に思ったことなどを発表する。 ・… ・…		（例） ①おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理の仕方について問題を見い出して課題を設定している。 <b>・行動観察</b> <b>・学習カード</b>	（例） ①伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について，課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 <b>・ポートフォリオ</b> <b>・行動観察</b>
⋮	3	○…（ねらい）… ……（学習活動）…			

6. 本時の展開 ( ○ / ○ 時間 )

(1) 題目 ※小題材名を基に端的に表す。 例「食事の役割と大切さ」など

(2) 本時のねらい

- (例) 「～を～して (に気付いて・を通して) ～することができるようにする。」
- 本時で児童が達成すべき目標を1～2項目くらいにしばり箇条書きにする。
  - 児童側からの表現にし、次の点について具体的に記述するとよい。
    - ※ 追求の対象・学習の対象・学習の材料
    - ※ 目のつけどころ・力となるところ・操作 など

(3) 学習活動と評価

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・方法
	※学習者 (児童) の立場で書く。 ※ねらいを達成するために行う活動を、活動のまとまりで書く。 ※文末表現の例 ・話し合う ・出し合う ・考える ・作る ・さぐる ・調べる など ※1, 2, 3…の番号をつける。(順序性がある)	※指導者の立場で書く。 ○や・で表す。 ○：中心的な働きかけや手だて (指導内容)。 ・：出方の予想や補助的な働きかけ。 ※記述する事柄の例 ○学習のきっかけ作り。 ○問いかけ (課題提示)。 ○各自での試行・作業のさせ方。 ○どの段階で発表させるか。 ○答えや根拠の整理・まとめ方。 ○ずれ・矛盾・疑問点などを明らかにしていく方法。 ○個に応じた多様な方法を想定しておき、実際に即して指導していく方法。 ○よりよい考えを選び出したり、作り上げていくときの手だて。 ○発展・応用していく方法。 ○次の時間へのつなぎ方。 等 本時の課題は [ ] で囲む。 ※教師の一方的な指導と思われる記述ではなく、児童の主体的な姿が現れた記述にする必要がある。	※本時のねらいを確認する箇所はどこかを意識する。 (本時のねらいと評価場面・評価方法の整合性を確認すること)。 ※評価方法、評価の観点及び番号 (指導と評価の計画に記載したものを明記する)
○	(例) 1 本時の学習のめあてを確認する。 [ ] 食事の役割を考えよう	○給食の献立を振り返らせる。	
○	2 …		(例) ■評価方法 【学習カード】 知識・技能①
○	3 …		
○	(例) 5 本時の学習のまとめをする。	○次時への意欲につながるようにする。	

(4) 本時の評価

観点	おおむね満足できる状況 (B) と判断される児童の姿	支援を必要とする児童への手だて
※評価の観点と番号を記入する。 (例) 知識・技能①	※評価規準をもとに、具体的な児童の姿を記載する。 (例) ・食事の役割が分かり、日常の食事の大切さについて理解している。	※児童への具体的な手だてを記載する。 (例) ・具体的な例を紹介して助言する。



## 第〇学年外国語活動学習指導案

令和〇年〇月〇日〇曜日  
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
〇年〇組 〇〇名  
指導者 〇〇 〇〇  
〇〇〇 〇〇〇 (ALT)

### 1 単元名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

・児童のこの単元でのゴールの姿が表れるような単元名

### 2 単元について

#### (1) 児童について

・児童の興味・関心・意欲、単元に関する知識・技能、既習事項の定着度など前単元までの実態

#### (2) 教材について

・取り上げる教材の内容、既習事項との関連、その教材を取り上げる意義、教材と児童との関係

#### (3) 指導について

・指導・支援の力点、グループやペアなどの学習形態、教具、仮説、その他の配慮事項

### 3 単元の目標

- ・「知識及び技能」に関する目標
- ・「思考力、判断力、表現力等」に関する目標
- ・「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

※必ずしもすべての観点を踏まえた目標を記入するということではない。

単元の目標は、学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえ、児童の実態、教材の意味などを基に設定する。

※単元の目標の例：

- ・世界にはさまざまな言語があることに気付くとともに、挨拶や名前の言い方に慣れ親しむようにする。(知識及び技能)
  - ・名前を言って挨拶をし合うようにする。(思考力、判断力、表現力等)
  - ・相手に伝わるよう工夫しながら、名前を言って挨拶を交わそうとするようにする。(学びに向かう力、人間性等)
- 1文で示すこともある。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

(例)

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話された際に、・・・・・・・・・・・・・・・・・・。
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;">                     評価規準の設定に当たっては、学習活動との関連において、その場面で児童に期待される学習の姿を想定して設定する。                 </div>		

6 使用する語彙や表現 ※「単元観」の項に入る場合もある。

○○○○○○

7 指導と評価の計画（単元の指導計画）（全○時間）

時	目標と主な活動	評価			
		知	思	主	評価規準<方法>
1	(例) 活動の見通しをもつとともに、身の回りの物の言い方を知る。 【P】「どんな物があるかな。」 ○「おはじきゲーム」 ○「ポインティング・ゲーム」 【C】”What do you like?” 【C】“We are good friends.”	○			・日本語と英語の音声の違いに気付いている。<行動観察・振り返りカード分析>
2					



8 本時の指導（1/4）

(1) 題目 身の回りの物の言い方 ※その時間に学習する内容を端的に示す。

(2) 本時のねらい

日本語と英語の音声の違いに気付くようにするとともに、身の回りの物の言い方を知ることができるようにする。

(3) 展開（例）

時間	学習活動	指導上の留意点		備考・評価
		HRT	ALT	
2分	・挨拶をする。	・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。		
本時のめあてや学習課題、主発問等を書く				
21分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の話から活動への見通しをもつとともに、身の回りの物の言い方を知る。</li> <li>【Let's Play】 p. 18、19</li> <li>・誌面の絵にあるもので、英語で言えるものを発表する。</li> <li>・どんな物があるか、どれが好きか探して発表する。</li> <li>・おはじきゲーム</li> <li>・5つ程度紙面の絵を選び、その上におはじきを置く。指導者が言った言葉のうえにおはじきがあれば、それを取る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の給食の話題から、どのような食べ物が好きかについてALTと、児童も巻き込んでやり取りする。</li> <li>・英語で言えるものを発表させる。</li> <li>・英語にはイントネーションがあることを目で見て分かるように工夫する。</li> <li>※評価</li> <li>・デモンストレーションで活動の方法を理解させる。</li> <li>・何度も繰り返し聞かせて音声に慣れ親しませるようにする。その際、日本語と英語の音声の違いについても、体験的に感じ取らせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の給食の話題から、どのような食べ物が好きかについてHRTと、児童も巻き込んでやり取りする。</li> <li>・児童の言ったものについて英語での言い方を示す。</li> <li>・デモンストレーションで活動の方法を理解させる。</li> <li>・何度も繰り返し聞かせて音声に慣れ親しませるようにする。その際、日本語と英語の音声の違いについても、体験的に感じ取らせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童用テキスト</li> <li>デジタル教材</li> <li>教師用カード（食べ物、果物、スポーツなど）</li> <li>おはじき（各児童5個程度）</li> <li>・日本語と英語の音声の違いに気付いている。【知】&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</li> </ul>
10分	指導の意図・重点・手立てなどについて留意すべきことを具体的に書く。			

## 第〇学年外国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日〇曜日  
第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
〇年〇組 〇〇名  
指導者 〇〇 〇〇  
〇〇〇 〇〇〇 (ALT)

- 1 単元名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
・児童のこの単元でのゴールの姿が表れるような単元名  
(教材名 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

- ・児童の興味・関心・意欲、付けたい力に関する児童の実態やこれまでの学習経験

#### (2) 教材について

- ・この教材の内容や価値を通して、児童に身に付けさせたい力等

#### (3) 指導について

- ・指導・支援の力点、グループやペアなどの学習形態、教具、仮説、その他の配慮事項

### 3 単元の目標

- ・「知識及び技能」に関する目標
- ・「思考力、判断力、表現力等」に関する目標
- ・「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

※必ずしもすべての観点を踏まえた目標を記入するということではない

単元の目標は、学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえ、児童の実態、教材の意味などを基に設定する。このようにしてできた目標は、実現状況を示す評価規準となる。  
※単元の目標の例:「名自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ったり、誕生日や好きなもの、欲しいものなど について伝え合ったりできるようにする。」

### 4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと [やり取り]	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p>&lt;知識&gt; 月日の言い方や、月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When～? その答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>	相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために、誕生日や好きなもの、欲しいものなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと [やり取り]	<p>&lt;知識&gt; 月日の言い方や、I like/want～. Do you like/want～? What do you like/want? When～? その答え方について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 知識を使って、誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、I like/want～. When is your birthday? What do you like/want～? などを用いて、考えや気持ちを伝え合うために必要な技能を身に付けている。</p>	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために、自分や相手の誕生日や好きなもの、欲しいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

6 指導と評価の計画（単元指導計画）（全○時間）

時	目標と主な活動	評価			
		知	思	主	評価規準<方法>
1					
3					
4	<p>誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取ったり、それらについて尋ねたり答えたりして伝えたりすることができる。</p> <p>(例)</p> <p>【Let's Chant】 When is your birthday? ○Small Talk: 誕生日と誕生日プレゼント</p> <p>【Let's Watch and Think 4】</p> <p>・デジタル教材を再度、視聴し Hana について分かったことをテキストに書く。誕生日や好きなもの、欲しいものについて教師の質問に答えたり尋ねたりする。</p> <p>○指導者の誕生日についての短い話を聞き、聞き</p>				<p>○</p> <p>・指導者の誕生日や好きなもの、欲</p>

	<p>取ったことをワークシートに記入する。誕生日や好きなもの、欲しいものについて質問に答えたり尋ねたりする。</p> <p>○メモリー・ゲーム【Activity 1】</p> <p>・インタビューをする。ペアで誕生日に欲しいものを尋ねたり答えたりして記入する。</p> <p>○Let's Read and Write</p> <p>○Sounds and Letters (Z、G、D、B)</p>				<p>しいものを聞き取っている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉</p> <p>・児童が聞き取る様子やワークシートの記述を分析し、評価の記録を残す。</p>
5					

## 7 本時の指導（4/7）

### (1) 題目 たん生日や好きなもの、ほしいもの

※その時間に学習する内容を端的に示す。

### (2) 本時のねらい

誕生日や好きなもの、欲しいものについて、聞き取ったりそれらについて尋ねたり答えたりする活動を通して、伝え合うことができるようにする。

### (3) 展開（例）

時間	学習活動	指導上の留意点	備考・評価
3分	<p>・挨拶をする。</p> <p>【Let's Chant】When is your birthday?</p> <p>・音声に合わせてチャンツを言う。</p>	<p>・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。</p> <p>・児童の実態により、スピードを選ぶ。</p>	デジタル教材
たん生日や好きなもの、ほしいものを聞きとろう。			
8分	<p>【Let's Watch and Think 4】</p> <p>・デジタル教材を視聴し、Hana について分かったことをテキストに書く。</p>	<p>・デジタル教材を視聴する際は、耳だけで聞き取ろうとせず、表情やジェスチャーなどの音声以外の非言語情報が内容理解の助けになることを確認する。</p> <p>・Gilberto と Hana の会話場面であることを確認し、Hana について分かったことをテキストに書くように言う。</p> <p>・児童の様子を見ながら、複数回視聴させる。</p>	ワークシート
5分	<p>○指導者の誕生日についての話を聞く。</p> <p>・指導者がゆっくりはっきり話すのを聞いて、分かったことを書く。</p>	<p>・指導者が誕生日などについて話すことを聞いて、ワークシートに分かったことを記入するよう言う。</p>	<p>デジタル教材</p> <p>ワークシート</p> <p>◎指導者の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。〈行動観察・ワークシート記述分析〉</p>

5分	<p>○メモリー・ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでじゃんけんをして勝った者から右回りで行う。カードを贈り合う児童同士は同じグループにならないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進め方の例を示す。</li> <li>・中学年で慣れ親しんだ、好きなものを尋ねたり答えたりする表現を聞いたり言ったりして、Activity 1 につなげる。</li> </ul>	
14分	<p>【Activity 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バースデーカードを贈り合うペアで、誕生日や好きなものの、欲しいものを尋ねたり答えたりする。</li> <li>・インタビュー内容に沿って、相手の好きな色でバースデーカードを飾ったり、好きなものの絵を描いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が喜ぶバースデーカードを作成するという目的を確認し、そのためにしっかり聞き取るという意欲をもたせる。</li> <li>・Let' s Watch and Think 4でのGilbertoとHanaの会話を思い出させるとともに、メモリー・ゲームでの相手の答えに対する反応を意識させながら、テキスト誌面の内容について友達と互いに尋ねたり答えたりさせる。</li> <li>・お互いの誕生日について対話の中で尋ね合うように指示をするが、クラスの友達であることを考えると、“When is your birthday?” と尋ねた後に、“January 18th?” と誕生日を確認する聞き方をすることも考えられる。</li> <li>・活動が終了したペアには、次の活動までにバースデーカードを作るように言う。</li> </ul>	<p>児童用テキスト バースデーカード (前時に使用したもの)</p>
5分	<p>○Let' s Read and Write</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バースデーカードに文字を書き写す。カードの所定の場所に Happy Birthday!のHとBを書き写す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に実際に書いて見せ、友達がカードをもらった時に嬉しくなるよう丁寧に H と B を書くように促す。</li> <li>・ワークシートの表の下に記載してある手本をよく見て書かせる。</li> </ul>	<p>バースデー カード (前時に使用したもの) ワークシート</p>
5分	<p>○Sounds and Letters (Z、G、D、B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Z、G、D、B の書き方を知り、形や4線上の書く位置に注意を払いながら、ワークシートの4線上に文字を書く。</li> <li>・文字の名称を聞いて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書く前に、児童と一緒にアルファベットの読み方や4線上の位置について確認してから始める。</li> <li>・ワークシート(Unit 2-8)「2.自分で練習しよう。」の4線上に聞こえた文字を書くよう促す。デジタル教材で音声を流す際には、目を閉じさせたり、文字が TV 画面に映らないようにしたりして、聞くことに集中できるよう配慮する。</li> </ul>	<p>ワークシート デジタル教材</p>
3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返る。振り返りシートに記入する。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてに沿って振り返らせ、書くように促す。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<p>振り返りシート</p>

# 特別の教科 道徳（道徳科）の学習指導案の様式（例）

## 1 道徳科の学習指導案の内容

道徳科の学習指導案には、特に決まった形式はありませんが、学習指導要領の解説には次のような内容で作成することが示されています。

項目事項	項目に盛り込みたい事項
1 主題名	<p>主題とは、どのような道徳的価値をねらいとし、教材をどのように活用するのか指導のまとまりを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例1・・・「気持ちのよい学校生活」</li> <li>・例2・・・「自然に学ぶ」</li> <li>・例3・・・「働くことの意味と大切さ」</li> </ul>
2 ねらいと教材	<p>○ねらいの文末表現は、その時間の指導の重点が道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確に示す。</p> <p>○ねらいの構造 例えば、ねらいは、「学習の中心的内容」「学習活動」「道徳性の諸様相」の3つの構造を一文で表す。</p> <p>○教材名と出典を示す。 (例) 教材名「ブランコ乗りとピエロ」相互理解、寛容 出典「私たちの道徳」</p>
3 主題設定の理由	<p><b>(1) ねらいとする道徳的価値 【価値観】</b></p> <p>授業者が、1時間の授業で指導する道徳的価値を理解して、自分なりの考え方を記載する。その際、学習指導要領解説によること。</p>
	<p><b>(2) 児童生徒の実態 【児童生徒観】</b></p> <p>ねらいに関わって、これまでどのような指導を行ってきたか、また児童生徒がどのような学習や経験をしているのか。また、その結果、どのような成果や課題があるのかを示す。</p>
	<p><b>(3) 教材の特質と活用方法 【教材観】</b></p> <p>教材のあらすじや特質、それを生かす具体的な活用方法等を記述する。</p>
4 本時の学習指導過程	<p>一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法等を指導の流れに即して記述する。</p>
5 評価	<p>本時で、児童生徒に期待する学びの姿を示す。(評価の着眼点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇多面的・多角的な見方へと発展させているか</li> <li>◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか</li> </ul> <p>⇒これらの方向で、実際の教材や発問等を鑑みて、児童生徒に期待する具体的な学びの姿を想定する。</p>
6 その他	<p>板書計画、他の教育活動との関連、複数時間扱いの際の指導計画等</p>

## 2 道徳科のねらいと評価

道徳科のねらいは、特に決められた形式等はありませんが、明確にしておくべき事項があります。

道徳科の学習は、道徳性の育成を目指して行われます。

ですから、その時間の指導の重点が、道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確にすることが大切です。



- 本時でねらう道徳性の諸様相を明確にする。
- ねらいの文末は、道徳性の諸様相を明確にして示す。
  - ☞ ～～な心情を育てる（道徳的心情の側面）
  - ☞ ～～な判断力高める（道徳的判断力の側面） 等

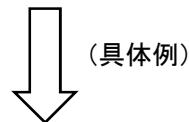
### 【ねらいの構造】

「新大分スタンダード」では、各教科等のねらいについて、「学習内容」「学習活動」「育成を目指す資質・能力」の3つの要素を入れた書き方を示しています。

道徳科で言えば、次のような3つの要素で書くことが考えられます。

「学習の中心的内容」 「学習活動」 「道徳性の諸様相」

- 「学習の中心的内容」 (～について、～を)
- 「学習活動」 (～活動を通して) 期待する学習状況のこと ☞ 評価の着眼点
- 「道徳性の諸様相」 (～な心情を育てる、～な判断力を高める、～な態度を育てる等)



- 「学習の中心的内容」・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて
- 「学習活動」・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して
- 「道徳性の諸様相」・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

【教材 そうじの神様が教えてくれたこと 中学校】

### 【評価の着眼点】

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。  
道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを、把握していきます。  
したがって、ねらいの3つの要素のうち、「学習活動」を評価の着眼点にします。

上の例で言えば、「働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりしているかどうか」を見ていくのです。

教材や発問等を鑑みて、次のような具体的な【評価の着眼点】を設定します。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

### 3 学習指導案の例（小学校）

#### 第5学年 道徳科学習指導案

1 主題名 謙虚に広い心をもって

#### 2 ねらいと教材

ピエロがサムを受け入れたことについて、人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方を話し合う活動を通して、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。

＜教材名「ブランコ乗りとピエロ」 内容項目「謙虚・寛容」＞

#### 3 主題設定の理由

##### （1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

「寛容」とは、広い心で相手の言動を受け入れたり、相手を認め、許したりすることである。しかし、自分と違う考え方や相手の過ちに対して、「寛容」であることは難しい。

では、どうすれば、人は「寛容」になれるのだろうか。

それには、「自分も失敗や過ちを犯すことがある」と自分自身を振り返る謙虚さが必要である。相手の言動の背景を理解することで、相手に対して寛容になれるのである。

高学年においては、異なる意見や立場を尊重し、これまでの自分自身の言動を謙虚に振り返ることで、相手を受け入れる気持ちが生まれてくることに気付かせたい。

##### （2）児童の実態【児童観】

本学級では、4月当初より学級づくりの一つとして、互いのよさを認め合う場を作ってきた。

例えば、素直に謝ることができた児童や、友達を許すことができた児童等を、帰りの会で紹介し、みんなで認め合う活動を行ってきた。

一学期の終わりには、友達と言い争いになっても、相手の意見に耳を傾ける児童が多くなってきた。また、「ごめんなさい」と友達が言えば、自分のしたことにも目を向け、素直に謝る姿も見られるようになってきている。

しかし、自分自身の言動を振り返ることは難しい実態もある。学級レクでは、誰かがミスをする必要以上に責める児童がいる。このような態度は、「自分もミスをするかもしれない」と、自分自身を振り返ることが不十分であるためだと考える。

このような課題に対して、児童たちが、自分に謙虚であることが寛容な態度につながると気付けるように、様々な視点から多面的・多角的に考える学習活動を構想していきたい。

##### （3）教材の特質と活用方法【教材観】

サーカス団のリーダーであるピエロは、半年前に入団したサム（ブランコ乗り）の態度に腹を立てていた。サムはピエロの忠告は聞こうとせず、いつもスター気取りだった。大王を招いての演技披露の時も、サムが目立ってしまい、ピエロは自分の演技を大王に披露することができず、憎しみの気持ちがさらに高まった。

しかし、演技を終えて疲れ切ったサムの姿を目にすると、ピエロの心から、サムへの怒りや憎しみが消え去るのであった。

ピエロの憎しみが消えていったのは、サムの演技への真剣さやサムに対する自分の態度を謙虚に見つめ、深く反省することができたからである。

本教材は、自分と異なる考え方や過ちを犯した相手を受け入れる時の心のもち方を様々な視点から想像し、「謙虚」な心が「寛容」な態度につながることを感じ取ることができる教材である。



#### 4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される児童の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点
導入	1. どうすれば、広い心がもてるのか話し合う。 ○どうすれば、広い心がもてるのかな	○教師の説話(学生時代の許せなかった経験)を行い、本時のねらいに対する問題意識を高める。
展開	2. 「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。 ○自分の出番を奪われたピエロはどんな気持ちだったか ・許せない ・くやしい ・後で一言言ってやる ・サムがにくい ◎なぜピエロから、サムを憎む気持ちが消えたのだろうか ・がんばっている姿を見たから ・サムがぐったり疲れきっていたから ・お客さんが喜んでいたので 【相手の長所 ⇒ 許す気持ち】 ・サムにきびしく言い過ぎたという反省の気持ちがあったから ・自分にも「目立ちたい」という気持ちがあったと気付いたから 【自分も反省すべきことがある ⇒ 許す気持ち】 ◇「がんばっている」と思えたら、「許せない」という気持ちは消えるのかな ・大切な出番を奪われたのに、がんばりを知ったくらいで、簡単に許せない ・ぼくが、ピエロの立場だったら、許すのは難しいかもしれない	○教材は、教師が読み聞かせる。 ○あらすじの構造図を示し、サムがピエロの出番を奪ったことを確認する。 ○サムの態度が許せないという考えを引き出し、ピエロに共感させる。 ○ピエロの気持ちの変容に着目させ、中心発問を位置付ける。 ○中心発問に対して、まずは、サムのがんばりを知ったから、憎しみが消えていったという考えを出させていき、板書に位置付けていく。 ○2つの考え方を対比的に板書し、人を許す時の感じ方、考え方を多面的に捉えさせていく。 ○ <u>ピエロ自身の反省と捉えた考えが出ない場合は、補助発問でゆさぶり、人を許すことの難しさ(人間理解)を感じさせる。</u> ○補助発問のスペアを準備しておく。児童の反応によっては、他の補助発問を活用する。 ○子どもの考えを分類したものに注目させ、中心発問と呼応させながら話し合いを整理する。(まとめ) ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
	3. 自分自身を振り返る。 ○今日の学習で、これからの自分にとって大切だと感じたことがあるかな。	○自分自身をじっくりと振り返ることができるように、ワークシートに書かせる。
終末	4. 教師の説話を聞く。	○寛容な態度のよさが、より実感できるように、偉人の名言を紹介し、実践意欲につながるようにする。

## 5 評価

<学習状況を把握するための指導の着眼点>

(期待する学習状況)

○サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合っているかどうか

○サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

<方法>

○授業中の発言内容や話し合いの発言内容から把握する。

○最後に書いたワークシートの内容から把握する。

※参考：<ねらいと評価の関連>

学習の中心的内容・・・ピエロがサムを受け入れたことについて

学習活動・・・人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方を話し合う活動を通して

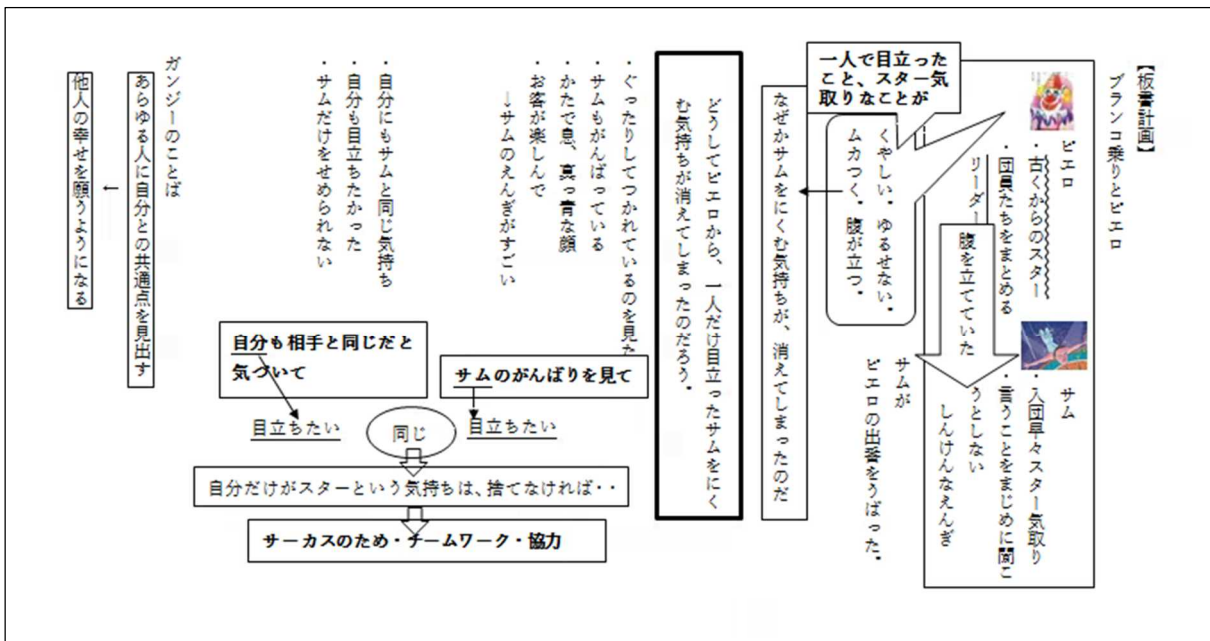
道徳性の諸様相・・・誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。

○サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合っているかどうか

○サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

## 6 その他

板書計画 (例)



※実際の板書は、県教委 HP に掲載している『道徳科』評価と授業構想の在り方の10ページ参照

## 4 学習指導案の例（中学校）

### 第1学年 道徳科指導案

#### 1 主題名 働くことの意味と大切さ

#### 2 ねらいと教材

主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して、勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

＜教材名「ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと」  
内容項目「勤労」 出典「日本文教出版」＞

#### 3 主題設定の理由

##### （1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

現代社会は巨大で複雑な産業社会となり、自分のしている仕事の意義が見えにくく、自らの目的をもちづらくなっている。これまであった仕事姿が姿を消し、新しい仕事が生み出されていく社会の中で、職業とは何かについて考えることは大切である。

職業には、収入を得て生活を維持するという面、社会の中で一定の役割を果たして社会を支えるという面、自らの目的を実現するために働くという職業を使命として捉える面等がある。また、働くことは、人生において、重要な位置を占めており、人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。

指導に当たっては、特に与えられた仕事への向き合い方を考えさせる。そして、働くことには自分自身の幸福追求だけでなく、自分が行う仕事によって社会を支え、発展・向上に貢献している一面もあることに気付かせたい。

##### （2）生徒の実態【生徒観】

本学級では、「何を優先して職業を選ぶか」という意識調査において、「趣味や特技をいかせる仕事」や「高収入を得られる仕事」、「将来が安定している仕事」を優先的に選ぶ生徒が大多数を占めている。

一方で「社会や人の役に立つ仕事」を優先的に選んでいる生徒は2人だった。職業を選ぶ上で自分の好きなことを優先し、安定していたり、高収入が得られたりする仕事に就きたいという生徒が多い傾向にある。

本時では働くことの意味を、収入という面、社会を支えるという面、職業を使命として捉える面等、多面的に考えさせることを通して、働くことの意味や大切さについて、生徒個々の考え方を深めていきたい。

##### （3）教材の特質と活用方法【教材観】

本教材の主人公は、ディズニーランドの「夜の清掃員」に配属されて落ち込み、掃除に対して偏見を抱えながら働いていた。

そんな時、ディズニー本社の「掃除の神様」チャックと出会い、掃除の方法や掃除に対する考え方を知り、主人公は、働くことの意味や誇りをもつことの大切さを学んでいく。

生徒たちに、主人公の変化や仕事への向き合い方に出合わせ、働くことの意味について議論させることで、働くとは社会に貢献する側面があると同時に、生きがいや自分の成長につながる側面がある（多面的・多角的な学習）と気付かせることができる教材である。

#### 4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点・・・○
導入	1 職業は何を優先して選ぶのか話し合う。 ○職業で大切なことは、何だろう。	○アンケート結果を提示し、本時のねらいに対する問題意識をもたせる。
展開	2 「そうじの神様が教えてくれたこと」を読んで話し合う。 ○「与えられたことをやるしかないんだ」と言った主人公はどんな思いだったか。 ・一生懸命働いて、他の華やかなキャストに変わりたい。 ・頑張って他の場所に移動したい。 ・仕方ないから働く。  ◎「仕事とは、自分の都合のためにやるものではないことを、教えられた」と言っている主人公はどんなことに気付いたか。 ＜ゲストのため＞ ・ゲストを喜ばせたい。 ＜ディズニーランドのため＞ ・みんなで助け合って、完璧なディズニーランドをつくりたい。 ・自分の担当以外でも気付いたらやろう。 ＜自分のため＞ ・ゲストが喜ぶことで結果として自分の夢が叶うことだ。 ・仕事に誇りをもって頑張ることが大切だ。  ◇主人公の夢（目標）は叶った（達成）されたのか。 ・自分の掃除で、ゲストが喜ぶことで夢は叶っている。 ・自分の仕事に、自分自身で納得したと思うから、叶っている。	○教材は、教師が読み聞かせる。  ○主人公が自分の夢（幸福追求）を求めてディズニーランドで働いていることに気付かせる。 ○ここでは、時間をかけすぎないようにする。  ○中心発問に対して、自分で考えをワークシートに書かせる。  ○教材文には、主人公の考えは書いていないことを伝え、自分の感じ方等を総動員させ、考えさせる。  ○考えをペアで交流させ、発表させる。  ○＜ゲストのため＞という意見が多くなると予想されるので、「ゲストのために何をするのか？」と問い、意見を広げていく。  ○誰かのためや社会のために働くことは結果として、自分の喜び(幸福追求)につながることに気付かせる。  ○働くとは、収入以外にも、自分の幸福追求と共に社会貢献の要素があることを整理してまとめとする。 ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
	3 自分自身を振り返る。 ○仕事をする上で大切なことはどんなことだと思うか。	○今日の学習で、自分にとって何が大切なのかを書かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○教師自身の今の職業に対する誇りや生きがい等を語り、生徒のもつ職業観をさらに広げていく。

## 5 評価

＜学習状況を把握するための指導の着眼点＞

（期待する学習状況）

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか

＜方法＞

- 授業中の発言内容や話合いの様子から把握する。
- ワークシートの内容から把握する。

※参考：＜ねらいと評価の関連＞

学習の中心的内容・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて  
学習活動・・・・・・・・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して  
道徳性の諸様相・・・・・・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

## 6 その他

板書計画（例）

そうじの神様が教えてくれたこと

アンケート結果

何を優先に仕事を選ぶか

- ・高収入・・・50%
- ・趣味や特技・・・25%
- ・休みが多い・・・15%
- ・人の役に立つ 10%
- ・その他

めあて 職業で大切なことは何だろう！

与えられたことをやるしかない！

・仕方がない。  
・華やかな場所に  
変わりたい



・頑張って、他の所へ  
・これも大切な仕事なのだ



「仕事は自分の都合のためにやるものではないことを教えられた」と言っている主人公は、どんなことに気付いたか。

- ・ゲストのためにいい環境をつくるのが大切
- ・ゲストの喜ぶ顔が仕事の成功

＜ゲストのため＞

- ・みんなで作ってあげるのが、ディズニーだ
- ・自分の担当以外も気付いたら行うことが大切

＜ディズニーのため＞

- ・ゲストの喜ぶことが自分の誇りになる
- ・自分の仕事にプライドをもって行うのがディズニーだ

振り返り 仕事する上で、大切なことはどんなことだと思うか？

## 総合的な学習の時間 単元計画としての学習指導案

単元の計画を具体的に表現するには、例えば次のような項目を学習指導案に位置付けることが考えられる。  
(小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 P104～ 中学校は P99～)

令和〇年度 〇〇小(中)学校 総合的な学習の時間 第〇学年(〇年〇組) 学習指導案

## 1 単元名

総合的な学習の時間において、どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、例えば、

- ・児童(生徒)の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること
- ・学習の高まりや目的が示唆できるようにすること

などに配慮することが大切である。

## 2 単元の目標

単元の目標は、どのような学習を通して、児童(生徒)にどのような資質・能力を育成することを旨とするかを明確に示したものである。各学校において定める目標や内容を視野に入れ、中核となる学習活動を基に構成する。

## 3 単元設定の理由

## (1) 児童(生徒)の実態

単元を構想し、構成する際には、児童(生徒)の実態を明確に把握する必要がある。特に、目標を実現するにふさわしい探究課題(これまでの学習経験)、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力について、どのような実態であるかを把握しておくことが欠かせない。また、中核となる学習活動について、どのような経験をもっているのかも明らかにする必要がある。

なお、児童(生徒)の実態の背景や原因を教師の指導の立場から分析し、記述することが大切である。

## (2) 教材について

教材とは、児童(生徒)の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。単元計画の中に教材について記すに当たっては、教材の紹介にとどまらず、児童(生徒)がその教材に出会うことによって学ぶ学習事項について分析し、教材のどこに価値があるのかを具体的に記すことが大切である。

## (3) 指導について

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。探究の各プロセスとは、①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現のそれぞれのことである。また、児童(生徒)の主体性や協働的な学習を重視するとともに、各教科等との関連や、地域の教育資源の活用等、探究的な学習を具現するために必要な教師の指導について記述することが大切である。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「知識・技能」の観点は</p> <p>① 概念的な知識の獲得</p> <p>② 自在に活用することが可能な技能の獲得</p> <p>③ 探究的な学習のよさの理解</p> <p>の3つに関する評価規準を作成する。</p>	<p>「思考・判断・表現」の観点は</p> <p>① 課題の設定</p> <p>② 情報の収集</p> <p>③ 整理・分析</p> <p>④ まとめ・表現</p> <p>の過程で育成される資質・能力を児童（生徒）の姿として示して、評価規準を作成する。</p>	<p>「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視する。これらは、</p> <p>自他を尊重する①自己理解・他者理解、</p> <p>自ら取り組んだり力を合わせたりする②主体性・協働性、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする③将来展望・社会参画などについて育成される資質・能力を児童の姿として示して、評価規準を作成する。</p>
<p>国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための参考資料（令和2年3月）を参考に、評価規準を作成する。</p>		

#### 【単元の評価規準を作成する手順】

- ① 単元の目標を確認する。
- ② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、目指すべき学習状況としての児童（生徒）の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

#### 5 指導と評価の計画（全○時間）

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
<p>単元の展開では、目標を実現するにふさわしい探究課題，探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力，児童（生徒）の興味・関心を基に中核となる学習活動を設定する。どのような資質・能力の伸長を期待しているのかを想定しながらの作業となる。</p> <p><b>【育成を目指す具体的な資質・能力と，具体的な学習活動を明らかにする必要がある】</b></p> <p>単元の学習を通して，どのような概念的な知識を児童（生徒）に獲得してほしいのか，どのような思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等の伸長を期待しているのか（<u>資質・能力</u>）を明確にし，児童（生徒）の興味・関心から始まる学習活動の連続が，<u>探究的な学習活動となるよう単元を構想（具体的な学習活動）</u>しなければならない。この段階では，具体的な時数や学習環境なども視野に入れ，単元の展開を具体化することが求められる。</p>					

【小学校学習指導要領解説 総合編 P. 104】【中学校学習指導要領 総合編 P. 99～】

（指導と評価の計画の枠組みは例示である。子どもの探究活動のまとまりが分かるように記述する。）

## 6 本時の展開

(1) 本時のねらい

(2) 展開 (○分)

学習活動 (○) 及び予想される子どもの反応 (・)	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価方法
○具体的な学習活動を記入する。 ・予想される子どもの反応や思考の流れ等を記入する。		○主な学習活動に即した教師の指導や支援を記述する。 ◆評価規準と評価方法を記入する。

(本時の展開の枠組みは例示である。)





1 単元名 佐伯駅弁開発プロジェクト  
～「佐伯ならではの幸」でおもてなし～（全70時間）

## 2 単元の目標

人口減少や観光客の減少等の問題を抱える地域がもっと賑わうように、地域の特産品や活性化に取り組む人々の取組を調べたり、地域の特産品を使った商品を開発して発信したりする活動を通して、地域の活性化に取り組む人々の思いや願いや自分たちにできることに気づき、持続可能な地域の在り方について考えるとともに、地域の一員として進んで行動しようとするようにする。

## 3 単元設定の理由

本単元は、探究課題「地域の特産品やその生産に携わる人々及び地域の活性化を目指す人々の思いや願いとそれを実現することの意義」に基づいて構想したものである。

### （1）児童の実態

子どもたちの総合的な学習の時間に対する意識は高い。本校は学級総合を基本としており、毎年調査しているアンケートでは、学級の全児童が総合的な学習の時間が「とても好き」「まあまあ好き」と答えており、毎時間楽しみにしている。好きな理由としては「いろいろな体験ができる」「自分たちの考えた方法で活動できる」「みんなと協力して学習できる」「やり遂げたいうれしさや楽しさを感じることができる」が挙げられている。そして、総合的な学習の時間で学んだ事や経験したことが他教科や日頃の生活に役立っていると考えた子どもの割合は71.4%と多い。

昨年までの学習の中で、思考ツールを使って整理し、課題についての話し合いを繰り返し、活発な意見交換ができるようになってきている。しかし、目的や意図に応じた思考ツールを自ら選択して活用するまでには至っていない。これは、教師から提示された思考ツールを使って話し合う場面が多く、課題の解決に向けて話し合う目的や意図、ゴールイメージを明確にもたせることができていなかったからであると考えている。

また、昨年度の総合的な学習の時間において、クラス全員で音を奏でる「ボディーパーカッション」や自分たちでペットボトルロケットを作成しての「ミニミニ宇宙開発」など、各学級の取組の中で、多様な体験活動を行い、新しいもの（こと）を自分たちで創り上げることの楽しさや難しさを実感している。

### （2）教材について

これまでにない「佐伯駅弁を開発する」ことに強く関心をもつことが

### 【単元の目標の構成】

学習内容  
学習活動  
資質・能力

これまでの総合的な学習の時間の経験を踏まえる。

どのような内容を学び、どのような資質・能力を身に付けているのか等、児童（生徒）の実態を把握するとともに、教師の指導の立場から分析する。

期待できる。また、商品化という中核となる活動を仕組むことで、子どもたちが相手（消費者）を意識しながら、主体的に学習活動を進めていくことが期待できる。

また、駅弁の材料となる「どのような特産品があるのか」「地域ならではのこだわり」などについての情報を収集する中で改めて佐伯のよさを見つめ直すこともできる。さらに、「自分たちだけで駅弁を作れるのか」「駅長さんの思いを実行することにつながっているのか」という目的に応じた整理・分析をしたり、活動の様子をまとめて紹介したりする表現活動など、探究的な学習のプロセスを繰り返すことができる教材である。

活動していく中では、子どもたちが乗り越えていくべき問題も生じるであろう。その壁を乗り越える場を主体的、協働的な学習の機会として生かすことができる。また、課題解決のためには地域の方の力を活用することの重要性を学ぶ機会も設定できる。

このような主体的な活動の中では、KJ法・座標軸・ピラミッドチャート・くま手チャート・ボックスチャート等の思考ツールの活用を助け、子どもたちが課題を解決しようとする場面で比較する力や関連付ける力を中心に思考力を身に付け、願いを実現しようとする態度を育てることができると考えている。

### (3) 指導について

#### ①活動全体を見通した留意点

- 失敗や躓きを予想して、「学び」の場面として生かす。
- 思考ツールを積極的に活用し、目的に応じて選択できるようにする。
- 仲間や地域の方々、専門家等との協働的な学習の機会を増やし、共に学ぶことの楽しさを実感できるようにする。
- 国語科・家庭科を中心として、各教科等との関連を図る。

#### ②探究的な学習プロセスの構成

##### ア 課題設定の工夫

まず、佐伯駅を見学し、駅（市）の現状や駅長さんの熱い思いを聞くことで、観光客を増やすために自分たちも協力したいという気持ちをもたせ、「駅弁開発」を課題に設定する。佐伯駅ならではの「めだま」を作ることを仕掛け、より積極的に取り組めるようにする。ステップ2では、まず、自分たちが食べたい駅弁をイメージする。その後、自分たちの好みだけで良いのかどうかを考え、買い手の立場になって駅弁を考えていく。ステップ3では、自分たちの力だけでは「駅弁」を作ったり売ったりすることは難しいという困りから、地域の方々と協働したいという思いをもたせ積極的にPRできる場を設定する。躓きが生じた時には、一度の失敗で諦めて終わりにならないように、地域の方や家族に協力

この単元で児童（生徒）が学ぶ学習事項について分析する。単元の独自性や重点が分かるようにする。

探究の各プロセスにおいてどのような指導の工夫を行うのかを具体的に記述する。

【課題設定】児童（生徒）の課題意識が連続発展するような教師の手立てが大切である。

- ・意図的な働きかけ
- ・学習対象との関わり方や出会わせ方を工夫
- ・対象に直接触れる体験活動など

してもらい、活動の方向性を自分たちで考えさせたい。

## イ 情報収集の工夫

情報を収集するにあたっては、活動の目的を意識させることで、「だれが」「だれに」「何を」「どのようにして」などの観点を踏まえるようにする。目的に応じて手段を選択し、課題解決のために必要な情報を集めることができるようにしたい。さらに、収集した情報は適切な方法で蓄積するようにする。

**【情報収集】**目的に応じた多様な方法で必要な情報を取り出したり収集したりする。

- ・情報は多様であり、収集する方法によって異なる。
- ・体験を通じた感覚的な情報収集を大切にする。
- ・自覚的に行う。
- ・収集した情報は蓄積する。

## ウ 整理・分析の工夫

体験したことや情報を整理・分析する段階では、多様な思考ツールに触れさせていきたい。集めた情報を整理するために、マトリックス表やグラフを用いる。最終的には、自分たちで情報を整理・分析する手段として、いろいろな思考ツールを自分たちで選択し活用できるようにさせたい。それを繰り返す中で、子どもにとって考え方の方向性が見える適切なツールを自分たちで選び、活用する力を付けさせたい。また、効果的な板書や発問、話し合いの論点を明確にする等の工夫で、子どもたちが根拠をもとに自分の考えを表現したり思考を深めたりできるようにしたい。

**【整理分析】**収集した情報を整理したり分析したりして思考する場面を位置付ける。

- ・「考えるための技法」の活用を意識する。
- ・考えを操作化、可視化する思考ツールの活用を検討する。
- ・子ども自身が情報を吟味する。
- ・どのような情報がどの程度収集されているか把握する。
- ・どのような方法で情報の整理分析を行うのか決定する。

本単元で活用されることが予想される思考ツールは、座標軸、ピラミッドチャート、メリット・デメリット、ボックスチャートなどである。これらを、目的や必要に応じて選択したり組み合わせたりしながら活用する力を付けるとともに、自分たちの考えを生かした学習活動が展開されるよう支援していきたい。

## エ まとめ・表現の工夫

駅弁ができたなら、それを「めだま」に観光客を呼び込みたいこと等について、佐伯駅、観光協会、まち作り団体、お店に対する様々なプレゼンテーションの仕方を考え、相手や目的、自分たちの意図を明確にする。その際、友達と話し合ったり協力し合ったりして準備をしていくことを大切にする。活動の最終場面では、自分たちが開発した駅弁をたくさんの人たちに味わってもらう場を位置付ける。そのことにより、自分たちの力でできたという達成感や、地域のために開発できたという成就感を味わわせたい。さらに、1年間の活動を振り返りや駅弁にこめた思いなどをプレゼンにし、地域に出かけて表現する活動を行う。最終的には、自分たちが考えた駅弁で佐伯を訪れている人たちをおもてなしし、感謝の気持ちを伝え、このプロジェクトの終わりにしたいと考えている。

**【まとめ・表現】**気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

- ・相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり、表現したりする。
- ・まとめ表現が、情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚することにつながる。
- ・伝えるための具体的な方法を身に付ける。(各教科等の表現様式の活用)
- ・外部への発信と評価により、子どもたちに達成感を味わわせる。

### オ 自己のよさや学びのよさに気付かせるための工夫

活動途中や活動後に、子どもたちが学んだことを生かしている姿を教師自身が見付け、すぐにフィードバックする「その都度評価」を行うことで、学びのよさを実感できるようにしていきたい。なお、「その都度評価」を行う際には、「付けたい力」だけにとらわれるのではなく、一人ひとりの個人内評価を重視していきたい。また、地域の方々からの評価等もいただきながら、子どもたちが主体的に活動できるようにしたい。1時間ごとの振り返りの中で、友だちの良さががんばりを紹介するとともに、自己の成長に気付かせる。子どもたちの振り返りを次時の導入に活用するなどして、子どもたちの活動と思考を連続させていきたい。

**【評価と振り返り】** 資質・能力を育成することができているかどうかを見取る。

- ・ 個人内評価を大切にする。
- ・ 多様な評価方法や評価者による評価を適切に組み合わせる。
- ・ 学習内容を確認する振り返り
- ・ 学びの価値を実感する振り返り
- ・ 学びの手ごたえを実感する振り返り

### 4 単元の評価規準（例）

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域には海・山・川の自然を生かして生産される特産品が存在し、それらを生かしたまちづくりが進められていることと、自分たちの生活が関わっていることを理解している。</p> <p>②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的意識を明確にしながらかつてまとめる方法が分かっている。</p> <p>③まちづくりと自分たちの生活に関連があることの理解は、特産品とまちづくりの関係を探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 特産品を生かした地域の活性化について、現状や理想との隔たりから課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② 特産品を生かした地域の活性化に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>③ 地域の活性化に向けて収集した情報を取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり、焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>① 活動を通して、自分と地域や地域の活性化に取り組む人々とのかかわりを見直そうとしている。</p> <p>② 地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で得た知識や友達や地域の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、地域の活性化に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全70時間）※例

次（時間）	ねらい・学習活動	知	思	態	備考
地域の現状を調査し、地域の活性化に向けた取組を考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の玄関口である駅に出かけ、駅長の話の聞いたり、駅周辺の様子を見学したりする。</li> <li>○地域の商店街の様子を調べたり、過去と現在の様子について調べたり、地域の方々から話を聞いたりする。</li> <li>○地域がもつ特徴やよさ等を調べる。</li> <li>○調べて分かったことを整理して、地域の現状を明らかにする。</li> <li>○地域の活性化に向けて、自分たちにできることを考える。</li> </ul>	①	①		<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
地域の食材を使った「オリジナル駅弁」をつくろう （30時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域が進めている活性化の在り方を調べたり、関係機関から話を聞いたりする。</li> <li>○全国の駅弁等について調べ、特徴を整理する。</li> <li>○どんな駅弁を作りたいか視点を決めて考え、駅弁イメージ図をつくる。</li> <li>○駅弁を作るために知りたいことを出し合い、インタビュー等で情報を収集する。</li> <li>○栄養教諭や観光課の方々、地域に訪れている観光客等に自分たちの駅弁の意見をもらい、活動の方向性を見いだすために整理分析する。</li> <li>○試作・改善を繰り返す。</li> <li>○駅弁についての意見を踏まえ、完成した駅弁のPR内容や方法を考える。</li> </ul>	②	② ③ ① ④	② ③	<p>知：振り返りシート</p> <p>思：発言分析 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p> <p>思：発言分析 振り返りシート</p>
自分たちの取組を振り返り、地域の活性化と自分たちの関わりについて考えよう （20時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分たちの活動を振り返るとともに、地域の特産品や活性化の取組と自分たちの関わりについて考える。</li> <li>○他地域の活性化の様子等を調べ、自分たちの地域にも生かせそうな取組を調べたりまとめたりす</li> </ul>	③	②	②	<p>知：振り返りシート 態：行動観察 振り返りシート</p> <p>思：振り返りシート</p>

	<p>る。</p> <p>○関係機関と協働しながら、持続可能な活性化に向けたアイデアをまとめ、「地域 MIRAI ノート」にまとめる。</p>	④			知：MIRAI ノート
--	-------------------------------------------------------------------------	---	--	--	-------------

**【留意点】**

児童（生徒）が自ら探究活動を進めるイメージをもって、学習活動のまとまりを示す。  
 探究的な学習の過程が充実するよう、探究プロセスを複数回繰り返すようにする。

## 6 本時の展開（38／70）

### （1）本時のねらい

オリジナル駅弁の食材について、「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」という視点に沿って、根拠や理由を明確にして話し合ったり、それぞれの食材のよさ等について比較したり多面的に検討したりすることを通して、佐伯の「めだま」となる駅弁にふさわしい食材を決定することができるようにする。

### （2）展開（45分）

学習活動及び予想される子どもの反応	時間	○教師の支援 ◆評価規準及び評価の方法															
1 前時を振り返りながら、本時の課題を確認する。 ・くま手チャートで考えた食材の振り返りをする。 ・前時の振り返りシートを数人分紹介する。	5	○前時の振り返りシートの中から、本時の課題につながる内容のものを紹介する。															
<b>（めあて）佐伯の「めだま」にふさわしい駅弁になるような食材を決めよう</b>																	
・自分たちの駅弁に欠かせない要素（視点）を確認し、それに沿って話し合うことを押さえる。 「佐伯ならではの」「時間がたってもおいしい」  2 個人が選んだ食材を出し合い、班で検討し、1～2個に絞り込む。 ・マトリックスを用いて多面的に話し合う。 ・個人のくま手チャートに記された根拠や理由を出し合う。	15	○話し合いの視点を板書に位置付け、意識させる。  ◆B-③（発言分析） <具体的な児童の姿> ・それぞれの食材の特徴を踏まえ、自分なりの理由や根拠をもって視点に基づき検討している。															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">食材／視点</th> <th style="width: 35%;">佐伯ならではの</th> <th style="width: 50%;">時間がたってもおいしい</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぶり</td> <td style="text-align: center;">△</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>ひじき</td> <td style="text-align: center;">△</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>塩トマト</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>マリンレモン</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> </tbody> </table>	食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい	ぶり	△	○	ひじき	△	○	塩トマト	○	○	マリンレモン	○	○		○食材名のみの発言が続く際には、「どうしてそうなったか」問いかけ、根拠を明確にするようにする。
食材／視点	佐伯ならではの	時間がたってもおいしい															
ぶり	△	○															
ひじき	△	○															
塩トマト	○	○															
マリンレモン	○	○															
3 班で絞り込んだ食材について、全体で検討する。 ・ボックスチャートを黒板に位置付け、班で出された意見を全体で検討しながら、食材を決めていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div>	20	○全体での話し合いによって食材が決定されるよう、「みんなはどう思うか」等問いかけていく。  ○本時の話し合いについての自分の思いや次時のめあてを書くよう助言する。															
4 本時の振り返りをする。 ・本時の話し合いを振り返り、次時のめあてについて考える。	5																

## 第5学年〇組 学級活動（1）**学習指導案**（例）

令和〇〇年〇月〇日〇曜日  
 第〇校時 〇時〇分～〇時〇分  
 指導者 〇〇 〇〇〇

- 1 **議題名** 第5学年「がんばったね集会をしよう」  
 学級活動（1）「学級や学校における生活づくりへの参画」  
 ＊議題名を示し、内容のまとまりを付記する。  
 ＊学級活動（2）（3）の場合は「議題名」ではなく「題材名」となる。

### 2 議題について

#### （1）児童生徒の実態

- ＊児童の学級生活における実態や、これまでの学級活動の取組など  
 当該学年の評価規準からみた、話し合い活動における課題や目指す方向など

#### （2）議題選定の理由

- ＊議題が選定された背景や教師の指導観 ・評価との関わりについて  
 ＊学級活動（2）（3）の場合は、「題材設定の理由」となる。  
 ＊学級活動（2）（3）の場合は、取り上げる題材の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その題材を取り上げる意義、題材と児童生徒との関係など

### 3 評価規準（例）

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより よくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

- ＊学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、学習指導要領解説特別活動編（平成29年7月）で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。（参考：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料：国立教育政策研究所、令和2年3月）

### 4 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】＜評価方法＞
〇月 〇日 ( )	＊児童の活動を簡潔に書く。 ・提案ポストの議題案を確認し、選定する。（計画委員会）	＊準備物や具体的な手立てを記入 ・議題選びの視点を念頭において選定することを指導する。	＊事前・本時・事後の活動の中で、どのように評価規準が位置付けられているのかが分かるように書く。



○月 ○日 ( )	・議題を選定する。 (学級全員)	・計画委員会で選定した議題案をもとに、学級全員で決定する。	◎がんばったね集会への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 【主体的態度】 <学級会ノート>
○月 ○日 ( )	・活動計画を作成する。(提案理由、話合いのめあて、話し合うこと、決まっていること等を確認する) ・学級会の進行の仕方を確認する。 ・学級活動コーナーに掲示する。(計画委員会)	・実態を踏まえ、日時や場所などの条件を「決まっていること」として教師が設定する。 ・提案者の思いや願いを学級全体の共同の問題になるよう提案理由をしっかりと深めるようにする。	◎友達のがんばりを認め合う内容を学級会ノートに書いている。 【思考・判断・表現】 <観察・学級会ノート>
○月 ○日 ( )	・学級会ノートに自分の考えを記入する。(学級全員)	・話し合うことや決まっていることが、共通理解できるように必要に応じて助言する。 ・提案理由を踏まえた自分の考えを記入できるようにする。	
○月 ○日 ( )	・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。(計画委員会)	・出された意見から話合いの見通しがもてるように助言する。必要に応じて短冊に記入する。 ・学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。	

## 5 本時の展開

### (1) 本時のねらい

1年間の互いのがんばりを認め合う楽しい「がんばったね集会」をするために、集会の内容を考えることができるようにする。

### (2) 指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】<評価方法>
1 はじめの言葉 2 計画委員の自己紹介 3 議題の確認 4 提案理由や話合いのめあての確認 5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。</li> <li>・提案者の思いや願いを全員が理解し、学級全員の問題であることを確認する。</li> </ul> <b>話合いのめあて</b> 「頑張った事を振り返ることができる集会の内容と工夫を考えよう」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まっていることを確認する。</li> <li>①日時・・・○月○日○時間目</li> <li>②場所・・・教室</li> <li>③ゲームで一つ、それ以外で一つ</li> </ul>	<p>話合いのめあてを明確化する。</p> <p>低学年の場合は、プログラムを示すことも考えられる。</p>

<p>6 話し合い 話し合うこと① 「何をするか。」</p> <p>話し合うこと② 「がんばりを認め合う工夫はどうするか。」</p> <p>話し合うこと③ 「どんな係が必要か。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会が進行に困った時は方向性を示唆し、児童の合意形成を方向付けるような助言はしない。</li> <li>・自治的活動の範囲を超えそうな場合は、適切に助言する。</li> <li>・必要に応じて、自分の意見に固執せず、納得したうえで考えを変えるなど、折り合いをつけて合意形成を図ることの大切さについて助言する。</li> <li>・これまでの集会の経験をもとに必要な係については事前に短冊を用意しておき、今回新たに必要な係について話し合う。</li> </ul>	<p>◎これまでの集会活動の経験を生かしたり、友達の意見のよさを生かしたりして、がんばったね集会の内容や工夫について考えている。</p> <p>◎提案理由や話し合いのめあてに沿って発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> ＜発言・観察＞</p>
<p>7 決まったことの発表</p> <p>8 話し合いの振り返り</p> <p>9 先生の話</p> <p>10 おわりの言葉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よかった点や課題について自己評価し、友達のよかった点等について相互評価できるよう助言する。</li> <li>・終末の助言では、「①前回の話し合いと比べてよかった点、合意形成したことへの価値付けや賞賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等」について、簡潔に述べる。</li> <li>・提案理由を意識した発言や建設的な発言、意欲的に参加していた児童を賞賛する。</li> <li>・実践への見通しをもち、意欲が高まるように言葉かけを行う。</li> </ul>	<p>「十分満足できる活動の状況」を的確に見とるため、具体的な児童の姿をいくつか想定して記述する。</p>

## 6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】＜評価方法＞
<p>○ 月</p> <p>○ 日</p> <p>( )</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。</li> <li>・役割分担が決まっていなければ、係の役割分担をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会で決まったことの要点をまとめて書くよう計画委員に助言する。</li> </ul>	<p>◎がんばったね集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組もうとしている。【思考・判断・表現】 ＜学級会ノート・観察＞</p>
<p>○ 月</p> <p>○ 日</p> <p>( )</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係ごとに計画を立てて、準備をする。</li> <li>・帰りの会などで係りごとに経過報告を行ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係は必ず複数名で担当し、全員で協力して活動できるようにする。</li> <li>・準備の進捗状況を確認し活動意欲の継続化を図る。</li> </ul>	
<p>○ 月</p> <p>○ 日</p> <p>( )</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「がんばったね集会」を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会のねらいを確認し、協力して実践できるようにしたり工夫して活動したりしている児童を賞賛する。</li> </ul>	

○ 月 ○ 日 ( )	・一連の活動を振り返る。	・自分の態度を振り返るとともに、めあてに基づいた振り返りを行い、自分の役割を果たすことや友達のよかったところについても認められるように助言する。	◎がんばったね集会の成果と課題を振り返り、自他のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。【主体的態度】 <学級会ノート・観察>
-------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------